

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部 国際コミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 科 目	キリスト教学	この授業は、本学の建学の精神であり、また欧米の歴史や文化に多大な影響を及ぼしてきたキリスト教についての基礎的・教養的な知識を身につけることをねらいとする。授業では、キリスト教の教典である『新約聖書』の「ルカによる福音書」を自分で実際に読む。そして理解のポイントとなる事項を解説しつつ、グループワークを通して読者（学生）自身が相互にその理解を比較・検証しながらイエスの生涯を学ぶ。	
	キリスト教学	キリスト教学 とともに、本学の建学の精神に関する授業であるこの授業もまた、キリスト教についての基礎的・教養的な知識を身につけることをねらいとしている。授業では、『新約聖書』の「使徒言行録」をテキストとして用いて、理解のポイントとなる事項を解説しつつ、グループワークを通して読者（学生）自身が相互にその理解を比較・検証しながら原始キリスト教会の誕生・展開について学ぶ。	
	グローバル化と多文化共生	本講義は、グローバル化した現代世界における文化、社会の諸問題について、オムニバス方式により、複数の教員で分担して実施する。担当教員及び取り上げるトピックとしては以下とおり。 （オムニバス方式 / 全15回） （現代英語学科1 石川昭仁 / 5回） グローバリゼーション、グローバリズムとローカリズム、非英語圏での共通語としての英語使用。 （国際コミュニケーション学科2 戸口民也 / 5回） ヨーロッパにおける多様性と一致、多文化共生の試み、異文化理解の基本。 （国際コミュニケーション学科15 松本充豊 / 5回） 東アジア文化圏におけるグローバリズムとローカリズム、グローバリズムが多文化主義多か、東アジアの方向性。	
	グローバル化と多文化共生	に続いて、グローバル化した現代世界における文化、社会の諸問題について、オムニバス方式により、複数の教員で分担して実施する。担当教員及び取り上げるトピックとしては以下とおり。 （オムニバス方式 / 全15回） （現代英語学科4 山川欣也 / 5回） グローバリズムと反グローバリズム、トランスナショナルということ、国境を越えるポップ・カルチャー。 （現代英語学科11 Sebastian Sainoo-Fuller / 5回） 英語の多様性、文化を越えた共通語としての英語、日本とヨーロッパ、「橋を架ける」ことの意味。 （国際コミュニケーション学科14 磯部靖 / 5回） 近代化への圧力と伝統文化とのせめぎ合いについて、中国の事例を通じて考える。	
	情報処理演習	本演習では、あらゆる場面でコンピュータを使いこなす技能を身に付けさせることを目標とする。講義で概念、動作原理を理解した後、各自がコンピュータを操作し演習課題を実行する。主な演習内容は次の通りである。コンピュータの基本操作、エディタの使用と和文・欧文入力、プログラミング言語演習、ワープロソフトを用いた文書作成、表計算ソフトを用いた計算処理等である。	
	情報処理演習	情報処理の体系を築いている思考方法を獲得させるために、あらゆる場面を想定した演習に取り組んでおくことが必要である。本演習では、データ処理、グラフィックス、電子メールの送受信、インターネットへのアクセス、データベースの利用、電子ニュースサービスの利用、ホームページ作成法等である。	
	スポーツ	スポーツの実践を通して、スポーツへの理解を深めるとともに、自己の身体への関心を高める。また、グループでのスポーツ活動で求められる個々人の基本的態度について理解する。個人種目を中心に実践し、それぞれの種目での技術・戦術の獲得、ルール理解、ゲームの楽しみ方を学習する。	
	スポーツ	スポーツの実践を通して、スポーツへの理解を深めるとともに、自己の身体への関心を高める。また、グループでのスポーツ活動で求められる個々人の基本的態度について理解する。球技系のスポーツで特に集団種目を中心に実践し、それぞれの種目での技術・戦術の獲得、ルール理解、ゲームの楽しみ方を学習する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 科 目	哲学	自然学から、ソフィストの出現、そしてソクラテスの出現によるプラトン、アリストテレス哲学への発展がどのように現代哲学と重なり合っているか、そして同時に、ポリスと深く関係したギリシア哲学が、現代思想とどのように繋がっているか等、まずギリシア哲学の歴史を研究しながらギリシア哲学が提出する現代的諸問題を考察する。	
	哲学	現代哲学の基本姿勢は現象学によって提出された「事実そのものへの還帰」によって代表されているといっても過言ではない。現象学によって触発された現代哲学の諸相はそのままわれわれの研究課題である。デカルトから始まる近代哲学の潮流の中で、特に、キェルケゴール、ニーチェ、フッサール、ハイデッガーなどの哲学を通して学んで行く。	
	歴史学	日本の古代都市を取り上げる。都城・大宰府・国府について、歴史地理学・考古学・文献史学等の成果を取り入れながら、その景観を復元的に考察した上で、そこに象徴された古代人の世界観を探究する。また、都城については、日本独特の行為である遷都の意味についても考える。国府については、そのすべてを取り上げることにはできないので、研究史上重要なものにしばって説明した後、特に西海道（九州）の国府について考察する。	
	歴史学	日本古代の道路について取り上げる。従来、日本の古代官道は、屈曲の多い小路と考えられてきたが、近年の歴史地理学・考古学の研究の進展によって、直線的な大道であったことが判明した。本講義では、古代官道について復元的に考察した上で、それらが律令国家の地域計画の基準線としても機能したことを明らかにする。さらに、駅路と伝路の複線的な意味について述べた上で、律令国家にとって官道がはたした象徴的な意味について考察する。	
	文学	宮沢賢治の童話作品は、日本の近代文学史の上で、特異な位置を占めている。本講義では、具体的に個々の作品を読みながら、その宗教性、自然性、音楽性などに注目する。また、賢治童話に独特な作品の転生―推敲の問題―についても取り上げる。その上で、日本の近代文学の中で、賢治童話のもつ意味について考察する。今年度は、特に賢治が生前唯一出版した童話集である『注文の多い料理店』に収められている作品を取り上げる。	
	文学	宮沢賢治の詩（心象スケッチ）について講読する。賢治は、自分の詩を詩とは呼ばずに心象スケッチと称したが、その背後には彼独自の創作における方法論が存在した。本講義では、特に発生論的な視点から心象スケッチを読むことによって、その方法論の意味について考察する。今年度は、特に賢治が生前唯一出版した心象スケッチ集である『春と修羅』（第1集）を取り上げる。なお、童話との関係についても留意したい。	
	美術史	ルネッサンスの芸術論、例えばアルベルティの「絵画論」、レオナルドの諸手稿、あるいはピエロ・デラ・フランチェスカの「絵画の遠近法」等を取り上げ、イタリア・ルネッサンス絵画の理論と実践について考える。	
	美術史	西洋美術史上のいくつかの現象を取り上げ、人間の美的営為について考える。一例としては、レンブラントの自画像について、レンブラントにとって自画像はどのような芸術的意味をもっていたのか等について考える。	
	法学（日本国憲法）	本講義は、日本国憲法における「統治機構」および「基本的人権」の基本的事項について解説をおこなう。とくに、憲法と諸法令との関係や新しい判例の動向などを探りながら検討をすすめていく。さらに、現代社会における諸問題を素材として、憲法がそれらとどのようにかわりをもつか、さまざまな角度から検討を試み、社会生活の中の“生きた憲法”について理解を深めることを目標とする。	
	法学	本講義は、現代社会におけるさまざまな法的諸問題について、どのように法的ルールが適用されてその解決が図られているかを検討する。とくに、刑事事件および民事事件における具体的な判例を素材として、われわれの社会生活における法制度の理解と法的思考能力を養うことを目標とする。身近な法律問題にたいする認識能力を高めつつ、平成21年から導入される裁判員制度についても理解を深めていく。	
	政治学	社会科学としての政治学について学ぶ。政治とは何かを理解する手助けとなるよう、国家、政治制度、政治過程といった現代政治の基本的な概念や理論を取り上げ、国際化が進む社会を視野に入れながら、身近な現実の政治問題と関連づけて考察していく。	
	政治学	政治と経済との関係は、政治学における重要なテーマである。基本的な概念やアプローチを紹介したうえで、工業化と権威主義支配との関係、民主化・民主主義体制と経済政策、グローバル化の影響といった問題を軸に、各国の政治経済の特徴を学ぶ。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 科 目	経済学	ミクロ経済学・マクロ経済学の基礎的な知識の講述を行う。またこの講義を通して、社会科学的な発想・視点の習得をめざす。	
	経済学	「経済学」の知識を前提とし、日本経済・国際経済についてのさまざまな課題を、平易に解説すると共に、社会への関心を高めることを目指す。	
	社会学	社会集団、社会過程（結合、支配、紛争）、社会構造、社会変動について、さまざまな具体的事例を通して考える。取り上げる事例は、性差別、環境問題、市民運動、経済制裁と構造的暴力、死刑制度と冤罪などである。適宜ビデオを用いる。	
	社会学	環境問題と南北問題についてさまざまな具体的事例を通して社会的に考える。取り上げる事例は、原子力開発、ダム開発、ユーカリ植林、遺伝子組み換え作物などである。適宜ビデオを用いる。	
	社会福祉論	われわれの日常生活に密着した社会福祉の諸問題を取り上げながら、生活に役立つような「福祉」のあり方や考え方（理念）について学習する。取り上げるトピックとしては以下のようなものがあげられる。 児童虐待、老老介護、ネットカフェ難民などの諸問題への社会福祉からのアプローチ。	
	社会福祉論	に続いて、われわれの日常生活に密着した社会福祉の諸問題を取り上げながら、生活に役立つような「福祉」のあり方や考え方（理念）について学習する。取り上げるトピックとしては以下のようなものがあげられる。 少子高齢社会、認知症への対応、介護保険制度の問題点などへの社会福祉からのアプローチ。	
	心理学	心理学の研究対象は、人間の意識や行動すべてに関するものであり、知覚（認知）・記憶・学習・発達・適応など、多様な領域に渡っている。日ごろのわたしたちの何げない意識や経験・行動には、いろいろな「不思議」が詰まっている。心理学とはその「不思議さ」を発見し、人間を意識や行動の領域から解明していく学問でもある。心理学は、人間の意識や行動の「不思議さ」の追究をめざすものであるが、ひいては、人間の豊かな生に結びつくものである。本講義では、人間の意識や行動について心理学でもたらされた知見を学びながら、人間についての理解を深め、自己や他者のあり方についての洞察の契機を得ることを目的とする。	
	心理学	心理学では、最近話題になっているメンタルヘルスについて取り上げる。自殺が多く、うつ（状態）の人々の増加が報告されている。こうした状況は、人々の社会への適応が困難であることを示している。この授業では、現代のメンタルヘルスの実態を把握したうえで、人々の適応が困難な理由について、現代の子どもや青年をはじめとする人々の発達の状況、人格発達理論、社会・文化的な背景などをもとに、考察していく。同時に、自己や他者のメンタルヘルスの向上に関与するカウンセリング理論やカウンセリングの実践方法を学ぶ。	
	生命科学	地球上の生命は、どのように誕生し、どのように暮らし、どのように変わってきたのか。この授業では、生命が見せる複雑な現象について、「どうしてそうなるのか？」を考えながら理解を深めていく。では「進化の仕組み、植物の生態、協力的行動の進化」に重点を置く。	
	生命科学	地球上の生命は、どのように誕生し、どのように暮らし、どのように変わってきたのか。この授業では、生命が見せる複雑な現象について、「どうしてそうなるのか？」を考えながら理解を深めていく。では「生物種間の関係、性の進化、生態系の保全」に重点を置く。	
	地球環境論	現在の地球環境がいかに生物と密接な関係の基に成り立っているかを、生命誕生の歴史から理解させる。生命がいかに環境の変動と調和を保ちながら進化したか、また、生物の進化にとって、他の生物との共生がいかに大切であったかを事例をあげて解説する。そして、現在のエネルギー源の大部分が化石資源に頼っていることを理解させる。この講義を通じて、人類が、進化の歴史においていかに特殊な生物であり、人類の更なる発展のためには、他の生物種は持ち合わせていない人類だけが持っている英知を働かせて地球環境を保全しなければならないかを、理屈としては勿論、感性でも解らせるようにする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 科 目	地球環境論	近代文明の進化によって、人類の生活による環境汚染が単なる地域の問題から、地球全体の環境問題になりつつあることを理解させる。すなわち、地球環境をいかに保全し、これ以上の悪化を防ぐことが将来の人類の生存・発展のために不可欠であることを理解させる。水域の富栄養化、2酸化炭素の蓄積、地球温暖化、環境ホルモン、等の近代社会の発展を脅かす近代社会がもたらした環境変化の科学的根拠を説明する。地球環境の保全が不可欠とは言え、人類の更なる発展のためには、開発との調和を保ちながらの環境保全が求められることを理解させる。	
	自然科学史	自然科学の発展を歴史的にたどりながら、人類が対象としての自然をどのように認識してきたかについて考察する。とくに現代科学技術の源となる近代科学の特徴、発展過程について詳しく学ぶこととする。具体的に授業では、資料をもとに、当時の一般的な自然観と見なされている自然科学者の自然観を知り、あわせてその解釈の可能性や変遷について考察する。特に、古代の数学や天動説、ニュートン力学、電磁気学の歴史については、詳しく見ていくこととする。	
	自然科学史	自然科学と社会との関係史を学ぶ。社会制度、思想・宗教との相互作用や、科学者および集団との相互作用について取り上げ、これまで漠然と考えられてきた常識を覆す。また、古代ギリシアから18世紀の産業革命までの科学技術の発達を概観した上で、その影の面としての環境破壊が各時代でいかに生じてきたかを理解する。このことは、21世紀のキーワードの1つである環境保全にどう対応していくかについて、重要な示唆を与えるであろう。	
	【日本語リテラシー科目】		
	基礎演習	基礎演習 及び の授業目標は、大学で「学ぶ」ための基本技術の習得である。基礎演習 では、そのために必要な9つの力「聴く・読む・調べる・整理する・まとめる・書く・表現する・伝える・考える」のうち、「聴く・読む・調べる・整理する・まとめる・書く」力の習得を目指す。授業内容としては、1)ノート・タイピング 2)リーディングの基本スキルの習得 3)大学図書館における情報収集 4)インターネットによる情報収集 5)アカデミック・ライティングの基本スキルの習得、などを扱う。	
	基礎演習	基礎演習 では、大学で「学ぶ」ために必要な9つの力「聴く・読む・調べる・整理する・まとめる・書く・表現する・伝える・考える」のうち、「書く・表現する・伝える・考える」力の習得を目指す。授業内容としては、1)ワープロを使ったレポート作成技術の習得 2)プレゼンテーションの基本スキルの習得 3)プレゼンテーション・ツールの活用（スライドからPowerPointまで）などを扱う。	
	日本語表現法	日本語表現法は、～を必修とすることで、今の学生に劣っているといわれる「書く力」を徹底的に鍛え、社会に送り出そうという狙いである。 では、小論文と作文（エッセイ）の書き方を教え、書くことの実践をさせる。小論文の出題の仕方が、課題（名詞句）提示と課題文の提示では書き方が異なることを知らない学生もあり、実例を読ませながら、違いを学ばせる。もちろん、作文は小論文とはまるで書き方が異なり、小論文のように「論ずる」のではなく「語る」ことの大切さ、面白さを習得させる。講義と書く実践を交互に繰り返し、実力をアップさせる。	
	日本語表現法	で行った小論文と作文の書き方の講義と実践を重複させながら繰り返し行い、本物の確固たる実力へと押し上げていく。の単なる繰り返し授業とならないように、小論文、作文の文章力を手紙文やメール送信文等々に応用させる授業も、実践を交えて行う。	
	日本語表現法	、で培った力をさらに推し進めて、レポートや論文の書き方をでは行う。読書レポート、調査・研究レポート、さらには論文の書き方を講義しながら、実際にレポート（或いは短い論文）を書かせて、口頭発表へと繋げていく。ここでは、文章力にとどまらず、書籍に書いてあることを的確に把握する力、その書の主張に対する自己の考えの形成（批判力）、それをまとめ上げる力を養う。また、与えられた課題について資料や情報を集める調査・研究能力等をアップさせる狙いもある。	
	日本語表現法	就職活動直前の時期ということで、その対策も兼ねた日本語表現法の授業とする。キャリアプランとの重複をいわず、説得力あるエントリーシートの書き方、企業への自己推薦文、志望理由文などの書き方を習得させる。また、就職活動の実践に役立てるべく、で習得させた小論文と作文の実践練習も再度行い「○○○について800字で書け。制限時間1時間」といった設定で、繰り返し書かせる授業も行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	海外自由研究	外国語の大学等に1学期間留学する学生は、渡航前および留学中に関係教員の指導を受け、提出した課題について自ら計画的に学修し、その成果を帰国後提出しなければならない。関係教員は、その成果を評価し、本科目の単位を認定するものとする。	
	海外自由研究	外国語の大学等に1年間（2学期間）留学する学生は、渡航前および留学中に関係教員の指導を受け、提出した課題について自ら計画的に学修し、その成果を帰国後提出しなければならない。関係教員は、その成果を評価し、海外自由研究に加えて、本科目の単位を認定するものとする。	
	【留学生科目】		
	日本語コミュニケーション技術	この授業は、日本で充実した留学生活を送るために必要な日本語によるコミュニケーション技術を学ぶことを目的とする。特に「話す」ということに焦点を当て、今より一段階上の「話し上手」「聞き上手」になることを目指す。学生ひとりひとりの発話を多くするため、授業は講義形式ではなくグループワークを中心に行う。また、コンピュータを使った教育方法も取り入れながら、発音練習も行う予定である。	
	日本語コミュニケーション技術	この授業では、さまざまな場面に必要な日本語によるコミュニケーション技術の習得を目指す。特に「話す」ことに焦点を当て、場面や話す相手によって、使い分けなければならないスピーチスタイルや日本語の表現を学習する。授業は、グループでのディスカッションやロールプレイなどを中心に行う。より自然な日本語の使用を目指し、授業では、必要に応じ、テープ・ビデオ教材なども使用する。	
	教養日本文化	オノマトペの日本語例文作成、写真で表現するオノマトペ制作をへて、今学期は日本語に特徴的な表現を辞典から抜き出し、その意味するところを一枚の写真に撮りおさめて、表象国語辞典のようなものを作ってみる。単なる文例によってでなく、肉体的に日本語と格闘することによって、心身一体となり日本語への理解を深める一端としたい。	
	教養日本文化	第二次世界大戦後日本の広告文化史、紙媒体の広告を扱いながら広告表現と世相・社会の関係性に着眼し、その歴史的プロセスをたどる。「時代」と「流行」の誕生を考える、あるいは広告の「社会性」を考える。	
	教養日本文学	この授業では、古典文学と呼ばれる文学作品の中から『源氏物語』『平家物語』など、特に有名なものを紹介し、その魅力を伝える。また紹介するにあたっては、当時の社会や文化についても取り上げることで、受講生の理解と興味が深まるように配慮する。奈良時代から江戸時代までのおよそ千年の間に、どのような文学が日本で生まれたのか、学んでもらいたい。	
	教養日本文学	日本にはどのような文学があり、どのような作家がいるのだろうか。この授業では、夏目漱石、森鷗外、芥川龍之介、太宰治といった近代を代表する作家とその作品を主に紹介する。各作品の一節を実際に読むことで、近代日本文学の魅力を体得してもらう。また近代から現代までの文学の流れを概観することで、専門科目「日本文学研究入門」「日本文学研究特論」への橋渡しともする。	
	教養日本社会	新聞やテレビ報道などから現代日本社会の情勢に触れ、自国との相違点についてそれぞれが考えたことを報告しながら、日本社会の現状を正しく理解していく。また、日本の伝統的な行事や習慣、日本人の考え方などに関する資料をもとに、「日本人」「日本」について理解を深めていく。	
	教養日本社会	日本社会で学んだことを元に、日本社会と同様、新聞やテレビ報道などから現代日本社会の情勢に触れ、自国との相違点についてそれぞれが考えたことを報告しながら、日本社会の現状を正しく理解していく。また、日本の伝統的な行事や習慣、日本人の考え方などに関する資料をもとに、「日本人」「日本」について理解を深めていく。	
	日本伝統文化実習	留学生を対象に、日本の伝統文化や芸能の中から書道、着付け、日本舞踊、茶道、生け花などについて紹介する。留学生が実際に体験する機会も設けながら、日本文化についての理解を深める。	
	日本伝統文化実習	留学生を対象に、日本の武道、特に合気道や相撲などをとりあげ、紹介する。留学生が実際に体験する機会も設けながら、日本文化についての理解を深める。	
	【キャリア支援科目】		
	キャリアプランニング	多種多様な実業界から講師を招き、体験に基づいた講義を行ってもらう。講義の中から「大学で学んだものが社会でどのように役立つのか」を学ばせ、在学中に「何を学び、どんな目標を設定するのか」「日々、具体的に何をなすべきか」を考えさせる。この過程で問題発見能力なども研鑽させる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	キャリアプランニング	「社会に出るとは、働くとはどういうことか」「自分は何になりたいのか」。多種多様な職業を熟知させることで「なりたい自分」をしっかりと把握させる。同時に、「なりたい自分」を追求する前提となる、社会で求められる種々の基本的スキルをつけさせる。例えば、情報収集力、論理的な思考力、コミュニケーション力などの基本を鍛える。実業界からの講師のほか、本学内の教員にも講義・演習に参加してもらう。	
	キャリアプランニング	3年秋学期の授業ということで、就職活動の実践につながる内容とする。実際の就職活動を具体的に説き、その流れに沿いながら、インターネット利用のエントリー方法、エントリー・シートや履歴書の書き方、面接の受け方、SPIなどの筆記試験対策を重ねる。これを4年次からの就職活動へと繋げていく。	
	インターンシップ	「教育（学生生活）から職業（社会人）への移行モデル」として、官公庁や企業等において、将来のキャリアに関連した就業体験を行う。夏期休暇期間中を主に10日間前後実施する。受講者には、事前研修への出席、研修日誌の提出、事後報告会への参加等を義務づける。以上の要件を満たしたものに対しては所定の単位を認定する。	
	【単位互換科目】		
	（「N CEキャンパス長崎」科目および特別講座）	長崎県下の大学間協定単位互換システムに従って履修した他大学の授業科目の単位、および別に定める特別講座を履修して修得した単位を認定する。	
専門科目	【比較社会文化研究プログラム】		
	言語学	特定の言語ではなく、言語一般に関する基礎知識を伝授し、人間言語そのものについて関心を深めさせることを目的とする入門講義である。この講義では、「言語とは何か・言語学とはどういう学問か」ということを概観した後、発声のしくみ（音声学）と、言語のもつ記号的な側面、すなわち音の構造（音韻論）・語の構造（形態論）・文の構造（統語論）をそれぞれ取り上げ解説する。この講義を通して、人間のこばを科学的に分析する方法の一端を習得させることを最終目標とする。	
	言語学	「言語学」に引き続き、特定の言語ではなく、言語一般に関する基礎知識を伝授し、人間言語そのものについて関心を深めさせることを目的とする入門講義である。この講義では、言語の意味（意味論・語用論）を取り扱った後、世界の言語の多様性・普遍性（比較言語学・対照言語学）・言語と社会の関わり（社会言語学）・言語の習得（心理言語学）・言語の起源・文字の発達など、言語の文化的側面も取り上げ解説する。この講義を通して、専攻言語と母語の共通点や相違点を広い視点から捉えなおすことができるようになることを最終目標とする。	
	異文化間コミュニケーション	異文化間におけるコミュニケーションを円滑に行うために、言葉の習得以外に必要な要素は何かを学んでいく。この授業では、コミュニケーションの仕方に多大な影響を与えている文化的規則や、思考パターンを左右する価値観、習慣などを日本と比較し、そこに見られる類似点、相違点を共に認識できるようにする。これらを認識した上で、国際人というのはどういう資質を備えていなければならないか考えていく。	
	異文化間コミュニケーション	異文化間コミュニケーションをより効果的に行うためには、自分のコミュニケーション行動について深く知らなければならない。この授業では、異文化間コミュニケーションIに引き続き、さらに自文化に関して深く掘り下げてみていながら、我々日本人が異文化間でのコミュニケーションを進めて行く中で遭遇しそうな問題を考察していく。また、海外在住の日本人や在日外国人などに関わる具体的事象を取り上げ、異文化との接触により実際に起こっているコミュニケーション上の諸問題を考察していく。	
	文化人類学	世界の諸民族・諸文化に関する現地調査と比較研究に基づく異文化理解の方法としての文化人類学について入門的な講義を行う。フィールドワーク、文化の概念、文化の比較、家族・親族論、ジェンダー・セクシュアリティ論、呪術・宗教論、医療人類学などの文化人類学研究の基本的諸テーマについて、世界諸地域の事例に基づき解説する。	
	文化人類学	世界の諸民族・諸文化に関する現地調査と比較研究に基づく異文化理解の方法としての文化人類学について入門的な講義を行う。多文化接触、エスニシティ論、民族の動態、開発と文化変化、グローカリゼーション、ポストコロニアリズムなどの現代世界と今日の文化人類学が直面する諸問題について、世界諸地域の事例に基づき解説する。	
	比較文化論	文化人類学を中心とする比較文化の方法を踏まえながら、諸文化のなかでの人間の誕生から死、死後の世界に至るまでの一連の過程について比較考察する。世界の諸文化・諸社会の事例に基づき、子どもと大人、男と女、生者と死者などのトピックについて、伝統的なあり方から現代における変容までを視野に入れて論じる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	比較文化論	文化人類学を中心とする比較社会・文化研究の方法を踏まえながら、人間社会における家族・親族を中心とする集団・人間関係の多様性と共通性について比較考察する。世界の諸民族・諸社会の事例に基づき、伝統的な家族・親族のあり方から現代社会における人間関係・ネットワークの変容までを視野に入れて論じる。	
	比較宗教学	この授業は、世界の諸宗教の多様性を認識し尊重しつつ、諸宗教・異文化に対する謙虚さ・寛容さを身につけることをねらいとする。授業では、客観的な立場から、世界の主要な宗教（キリスト教・ユダヤ教・イスラム教・仏教・ヒンドゥー教・儒教等）および日本の宗教について概説し、その歴史・礼拝・教典・宗教生活・文化等を概観する。	
	比較宗教学	この授業は、宗教史の基礎的知識および諸宗教・異文化に対する謙虚さ・寛容さを身につけることをねらいとする。授業では、世界の主要な宗教（キリスト教・ユダヤ教・イスラム教・仏教・道教・ヒンドゥー教・儒教等）および日本の宗教の歴史を学び、現代の社会にインパクトを持つ「宗教」というファクターが世界史の中でどのように展開してきたのかを客観的に考察する。	
	比較憲法論	本講義は、近代立憲主義と世界各国における憲法体制についての比較研究を目的とする。わが国の憲法状況を念頭において、各国の「統治機構」および「基本的人権」のいくつかの論点について解説をおこないつつ、国家の立憲主義を支える歴史的・社会的背景などについて検討を試み、現代国家における法制度ないし法原理の共通性について理解を深めていく。ここでは、とくに欧米諸国の憲法についての特徴について検討をおこなう。	
	比較憲法論	本講義も、比較憲法と同様、近代立憲主義と世界各国における憲法体制についての比較研究をおこなう。ここでは、まず第1に、第2次大戦後、わが国の憲法がアメリカ流の民主憲法を継受したことに鑑みて、アメリカ合衆国の立憲主義を支える歴史的・社会的背景などについて検討する。第2に、世界各国とくに環太平洋アジア諸国（オーストラリア、ニュージーランド、中国、韓国、タイ、フィリピン、マレーシア等）における立憲主義憲法の特徴について検討し、わが国を含めたアメリカ憲法の影響についての比較をおこなう。	
	比較文学	比較文学的考察は二つの方向性を有する。第一は、古くは中国、新しくは欧米の文学作品の日本文学への影響の跡を辿るというような影響史的考察である。第二は、直接の影響関係は存在しないが主題、筋、モチーフ等が酷似している異なる国の作品同士を比較し、その精神的・文化的背景を探る考察である。これら二方向の過去の優れた研究業績、特に欧米文学と日本文学との比較研究の実例を紹介し、比較文学研究の持つ文学的意義と比較社会文化的意義とを探る。	
	比較文学	日本語は明治の近代化過程で欧米語との出会いによって一大変革をとげた。変革の主役は翻訳であった。翻訳は「横のものを縦にする」というような生易しいものではなく、相手の言語・文化と自分の言語・文化との間に演じられる精神的格闘である。各種シェイクスピア訳、『新体詩抄』、『於母影』、『海潮音』等における翻訳の試み、『即興詩人』等の鷗外の訳業をその原典と比較して翻訳の苦闘の痕跡に光を当て、近代初期における翻訳の意義を文化的葛藤の視点から再考する。	
	歴史地理学	古代ローマ帝国の歴史地理について考察する。地域としては、北部から中部ヨーロッパ現在の国では、イギリス・オーストリア・ハンガリー等を取り上げる。イギリスでは、北の国境であったアントニヌス・ウォール、代表的な都市であるコルチェスターとロンドン、当時の灯台の遺構が残るドーバー、石畳の道路が残るブラックストーン・エッジ等について考察する。オーストリア、ハンガリーでは、ゲルマンとの国境であったリメス沿いの遺跡を取り上げる。その上で、日本の古代遺跡とも比較検討したい。	
専門科目	歴史地理学	古代ローマ帝国の歴史地理について考察する。地域としては、南ヨーロッパ現在の国では、フランス・スペイン・イタリア等を取り上げる。フランスでは、ラングドック地方の代表的なローマ道であるドミティア街道沿いの都市や山城、スペインでは、その西北部の都市や鉱山、イタリアではアッピア街道沿いの遺跡などについて考察する。その上で、日本の古代遺跡とも比較検討したい。講義では地図や写真を用いて、地理学的な視点に留意する。	
	メディア論	メディアの中でも、新聞やテレビ等のマスメディアを俎上に上げて、そのコンテンツがどのように作られ、どう流されるかを中心に講義する。日々ニュースを取り上げることで具体的な問題提起を常に行う。この授業の過程から、コンテンツはメディアによって「構成・加工」された世界であり、社会の考え方（広い意味でのイデオロギー）やメディア業界の価値観に大きく影響されることを学ばせ、「メディア・リテラシー」教育とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	メディア論	メディア論 の続編であり、メディア・リテラシーの能力をアップさせるのが狙いである。メディア世界が法令や司法判断に影響されること、メディア発信の情報も経済的競争の枠内から抜け出られないことを具体的、かつ今日の問題として考察し、受講生に賢い「情報消費者」になるように導く。	
	長崎文化論	長崎は鎖国時代の外国への「窓」として、異文化交流の町という特異な歴史をもつ。長崎市の発達は、異文化を取り入れて日常生活に消化してきた庶民の生活史としてとらえることができる。平穏な生活に、異文化の刺激が加わったとき、衝撃を受け、さまざまなドラマを生み出していく。その「文明の衝突」と「異文化の受容」を、考えてみたい。 長崎文化論 では、1570年の長崎開港から1800年までの期間において、キリシタン文化、唐人文化、オランダ文化が長崎の町民文化のなかに、いかに受け入れられたかを見ていく。	
	長崎文化論	長崎文化論 を引き継ぎ、 では、1801年以降、1945年までの時代を見ていく。オランダ文化、中国文化のなかにほかの西洋諸国の文化がいかに加わっていったか。安政の開国で、長崎に影響を与えたイギリス、ロシア、アメリカ、フランスなどの文化を、現在に残る文化遺産にその足跡をもとめながら学習していく。	
	国際関係論	この授業では、現在の国際関係の基本的枠組が形成された、18世紀末から第二次世界大戦までの時期における国際関係を勉強していく。具体的には、以下のような、18世紀末から第二次世界大戦までの時期に起こった、国際関係における重要な出来事を学んでいく。 アメリカ独立戦争とその波及効果、フランス革命、ナポレオンの盛衰、産業革命、市民革命、ドイツとイタリアの統一、アメリカにおける「フロンティアの消滅」、アメリカ南北戦争、オスマン・トルコ帝国の衰退とアラブの民族運動、ロシアの南下政策、アジア・アフリカの植民地化、帝国主義列強による世界の分割、第一次世界大戦、ロシア革命の意義、ヴェルサイユ体制の矛盾、国際連盟の破綻、世界恐慌とファシズムの台頭、第二次世界大戦など。	
	国際関係論	この授業では、現在の国際関係を理解する上で極めて重要な、第二次世界大戦後から現在に至るまでの時期における国際関係を勉強していく。具体的には、以下のような、第二次世界大戦後から現在に至るまでの時期に起こった、国際関係における重要な出来事を学んでいく。 戦後処理をめぐる米ソの対立、国際連合の成立、東ヨーロッパの社会主義化、ベルリン分割、「封じ込め」政策、冷戦の始まり、朝鮮戦争、「巻き返し」政策、アジア・アフリカ諸国の独立、「ミサイル・ギャップ」論争、中ソ対立、キューバ危機、ベトナム戦争、ド・ゴールの挫折、米中和解、オイル・ショック、ニクソン・ショック、「強いアメリカ」の出現、ベレストロイカ、冷戦の終焉、「平和の配当」の幻想、地域紛争の頻発、「文明の衝突」、「テロとの戦い」、グローバル化、「中国の時代」、資源・環境問題の深刻化など。	
	国際人権法	本講義は、国際社会の基本的枠組および積極的平和・人権の理念を基礎として、「国際人権規約」「難民条約」「女子差別撤廃条約」「児童の権利条約」「人種差別撤廃条約」などの国際人権条約について解説をおこない、国際人権法の基本体系および理念の理解を目標とする。ここでは、とくに国際社会における人権問題についての認識能力を醸成するとともに、国内の最高法規である憲法と条約との関係についても理解を深めていく。	
	国際人権法	本講義は、今日の国際社会が人的交流の増加にともなって共通にかかえる外国人問題について、国際人権の国内的保障という視点で考えていく。また、わが国のみならず、アメリカ、ドイツ、フランス、との比較法的な視点も加味していく。そして、国際社会における人権問題についての認識能力を醸成するとともに、国籍と人権との関係や外国人の家族生活を営む権利の重要性について認識を深めていく。	
	海外文化研修	アジア、アメリカ、ヨーロッパ諸国など、海外への研修旅行を含む授業である。担当講師が事前に研修対象地についての講義を行う。受講者は各自の研究テーマを持ち、講師が引率して1週間から10日間程度の研修旅行を行う。単位認定は帰国後、研究レポートの提出により行う。担当の講師と研修先は毎年度替わる。	
	比較社会文化演習	比較社会文化研究の諸テーマについて、担当教員の専門分野に関する文献の購読・発表・討論など、演習形式の授業を行う。	
	比較社会文化演習	に続いて、比較社会文化研究の諸テーマについて、担当教員の専門分野に関する文献の購読・発表・討論など、演習形式の授業を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	【ヨーロッパ研究プログラム】		
	ギリシャ語の世界	「ギリシャ語の世界 ・ 」の授業のねらいは、古典ギリシャ語の学習を通じて古代ギリシャの文化・学芸に接するとともに、ヨーロッパにおける古典的教養の一端を知ることである。では、語学的には初級文法の基礎を習得することを主眼に、アルファベット・発音・アクセントから初歩の文法事項を中心に学ぶ。また新約聖書原典をはじめ古典ギリシャ語の名言等を紹介し、ギリシャ語世界の息吹に触れる。	
	ギリシャ語の世界	に引き続き、語学的には、基礎的なボキャブラリー増強に努めつつ、初歩の文法事項を中心に学ぶ。辞書と文法書とを用いて簡単なギリシャ語の文章を読める程度の語学力を身に付けるのを目標とする。また新約聖書原典をはじめ古典ギリシャ語の名言等を紹介し、ギリシャ語世界の息吹に触れる。	
	ラテン語の世界	「ラテン語の世界 ・ 」の授業のねらいは、古典ラテン語の学習を通じて古代ローマの文化・学芸に接するとともに、ヨーロッパにおける古典的教養の一端を知ることである。では、語学的には初級文法の基礎を習得することを主眼に、アルファベット・発音・アクセントから初歩の文法事項を中心に学ぶ。またラテン語訳聖書（ウルガータ）をはじめラテン語の名言等を紹介し、ラテン語世界の息吹に触れる。	
	ラテン語の世界	に引き続き、語学的には、基礎的なボキャブラリー増強に努めつつ、初歩の文法事項を中心に学ぶ。辞書と文法書とを用いて、簡単なラテン語の文章を読める程度の語学力を身に付けるのを目標とする。またラテン語訳聖書（ウルガータ）をはじめラテン語の名言等を紹介し、ラテン語世界の息吹に触れる。	
	ヨーロッパの歴史	フランク帝国期～15世紀末のヨーロッパ中世史を、イギリス、フランス、ドイツ、スペインを中心に講義する。この時代には近代的な国民国家はいまだその諸萌芽しか見せておらず、「ヨーロッパの一体性」という視点が重要である。中世における各地域の独自性と、特にヨーロッパの一体性を、平民、領主という階級の観点、社会＝経済、政治＝法制、文化という社会成層の観点から、論じていく。近・現代ヨーロッパとは異なる中世ヨーロッパの諸特徴を学び取ってほしい。	
	ヨーロッパの歴史	ヨーロッパ近世・近代史（16～19世紀）を、イギリス・アメリカ、フランス、ドイツ、スペインを中心に講義する。一体であったヨーロッパが諸国民国家へ分裂し、各国が多様な発展をたどっていく歴史を、社会＝経済、政治＝法制、文化という社会成層の観点から理論的、具体的に考察していく。近・現代ヨーロッパとは異なる近世ヨーロッパの中から、どのようにして近・現代ヨーロッパが成立していったのかを、学び取ってほしい。	
	ヨーロッパ文化史	ヨーロッパ文化の歴史を学び、現代文化の背景を探る。主題は「ヨーロッパの社会・文化における古代ギリシアの文物」とする。古代ローマから20世紀までの時代において古代ギリシアの文物、すなわちその文学・思想と神話がいかにヨーロッパの社会と文化に影響を与え、あるいは受容されたかを論じる。	
	ヨーロッパ文化史	ヨーロッパ文化の歴史を学び、現代文化の背景を探る。主題は「英語の学習教材にみる歴史」とする。海外で出版されている小学生や中学生向けの歴史学習の教材などを通して、ヨーロッパの歴史と文化を概観する。	
	現代ヨーロッパの政治と経済	この講義では、EUに焦点を当て、その仕組みや歴史、現状について経済と政治の面から理解を深めることを目的とする。内容としては、授業計画のトピックに沿って講義形式で行うこととする。それに加えて、EUに関する新聞記事などの解説も行う。	
	現代ヨーロッパの政治と経済	この講義では、ヨーロッパの国別研究を行う。ヨーロッパの国々の中でもEU加盟国を中心に、その現状や問題、他国またはEUとの関係について理解を深めることを目的とする。また、各国の最近のトピックを扱った新聞記事などの解説もする。	
	現代ヨーロッパ社会論	「ナショナリズム」をキーワードにして、現代ヨーロッパの社会の特質を明らかにする。「国家とは何か？」というナショナル・アイデンティティをめぐる問いは、「私とは何者であるのか？」という自己アイデンティティをめぐる問いと表裏一体の関係にある。20世紀から21世紀にかけてのヨーロッパのナショナリズムをめぐる諸言説を検討することで、このような問いに答えることが講義の中心となる。	
	日欧関係論	日本とヨーロッパの文化の＜翻訳可能性＞について考察する。ここでの＜翻訳＞とは書物の翻訳だけではなく、日本語という記号の体系と西欧語という記号の体系の相互変換にかかわる文化的事象全般を指す。つまり、異文化を理解し、自文化にそれを伝えるという行為に関わる多様な局面が考察の対象となる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ドイツ語ドイツ文化海外セミナー	デュッセルドルフ大学の国際コミュニケーション・インスティテュートで1ヶ月間のドイツ語集中講座を受講し、ドイツ語の運用能力を飛躍的に高める。ドイツで学生寮に住み、日常生活を送り、あらゆる局面で使うドイツ語を体感する。 事前の日本での授業は、ドイツの土を踏み、実際にドイツで生活をし、現地でドイツ語を学ぶための準備を行う。あわせてドイツの生活や文化について学習する。各自が広義の「ドイツ文化」のなかから重点テーマを決め、1ヶ月間の滞在期間中その視点でドイツを観察できるように準備する。	
	フランス語フランス文化海外セミナー	フランス研修・留学がスムーズにできるようにするため、以下の4点を中心に準備を行う。(1)フランス滞在中のよくある場面での会話とフランス事情の説明や注意、(2)日本についての質問に答える準備、(3)覚えておきたい単語・表現、(4)出発前の準備や滞在中に必要な情報。留学する学生に対しては、留学先大学に提出する書類等の準備、VISA・滞在許可申請手続きの援助等も行う。	
	ドイツ語学演習	ドイツ語のルーツとその歴史を概観し、現代ドイツ語の特徴を確認する。言語史におけるドイツ語の位置付け、ドイツ語の歴史的変遷と今日の標準ドイツ語の成立過程をたどる。	
	ドイツ語学演習	母語としてのドイツ語を論じた18世紀から20世紀にかけての思想家たちの言説を歴史的に追う。同時に、論理的に組み立てられたドイツ語の構造を把握し、内容を深く理解する。	
	ドイツ文化演習	ドイツ研究のヒントを文化全般にわたって概観する。古代ゲルマンから、中世、バロック、啓蒙期、ロマン主義期、世紀末、20世紀から現代までのドイツ史を概略的にたどりながら、各時代の文化事象を様々な資料をもとに学ぶ。	
	ドイツ文化演習	ドイツ文化研究 でえた知識をもとに、受講者の興味のある文化事象を掘り下げてゆく。口頭発表、討論、レポート作成を課す。	
	ドイツ文学演習	ドイツ文学の歴史的な流れを概観する。中世から現代までのドイツ語圏の文学をたどる。各時代の代表的な作品を取り上げ、作家、作品、時代背景について考察する。	
	ドイツ文学演習	ドイツ語圏の文学の核となる作品を鑑賞する。取り上げた各時代の代表的な作品について、口頭発表、討論、レポート作成を課す。	
	フランス語学演習	コミュニケーションのための言語の特徴を考察し、日本語との比較も行いながら、音節の構造とアクセント、子音、母音体系、文のレベルでの発話の問題、イントネーションの持つ文法的役割と、文の意味の関連についても考察する。	
	フランス語学演習	日本語をフランス語にする作業をしながら、日本語とフランス語の違いを理解し、フランス語の構文を学び、フランス語の単語についても詳しく考察する。特に前置詞の問題、同意語、多義語の問題、長文理解とレジュメの練習も行う。	
	フランス文化演習	フランスの思想と文化について、歴史的な背景をふまえながら学ぶ。フランスの社会、思想、文化に関するテキストを読みながら、いくつかの具体的なトピックを中心に考察してゆく方法を取る。	
	フランス文化演習	フランス文化演習 をふまえながら、引き続きフランスの社会、思想、文化について学ぶ。フランス文化と日本文化の違いについても考える。	
	フランス文学演習	中世から20世紀まで、フランス文学の歴史をたどってみる。各時代の主要作品・作家などを、実際のテキストの抜粋などもまじえて紹介する。	
	フランス文学演習	フランス文学演習 では、基本的にはひとりの作家あるいは詩人を選び、その生涯をたどりつつ作品を研究するスタイルをとる。	
	【アジア研究プログラム】		
	東南アジア文化研究	東南アジアの歴史・民族・社会・文化の現状と特徴について、歴史学、文化人類学、政治学、社会学などの諸分野の研究を踏まえた学際的地域研究の成果に基づき解説する。東南アジア地域の概観、各国のプロフィール、民族と社会の構成、宗教事情などのトピックについて取り上げる。	
	東南アジア文化研究	東南アジア諸国の開発や発展をめぐる諸問題について論じる。社会的格差や貧困の問題、農村開発、社会開発、紛争、人権問題、災害復興援助などのトピックについて、国際援助機関やNGOなどの取り組みを事例として取り上げながら論じる。	
	東アジアの歴史	グローバルな視点から、東アジアの歴史を学ぶことを目的とする。とくに、古代から近代に至るまでの東アジアの歴史を学ぶ。具体的には、黄河文明、長江文明、殷、周、春秋・戦国時代、秦、漢、三国時代、三韓時代、任那、魏晋南北朝時代、隋、唐、遣隋使、遣唐使、冊封体制、朝貢貿易、華夷秩序、五代十国、北宋、南宋、モンゴル帝国、海のシルクロード、明、倭寇、勘合貿易、大航海時代、南蛮貿易、イエズス会の活動、鎖国体制、朝鮮通信使、清、「西洋の衝撃」、アヘン戦争、明治維新、日清・日露戦争、辛亥革命、満州事変、日中戦争など。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	東アジアの歴史	グローバルな視点から、東アジアの現代史を学ぶことを目的とする。とくに、第二次世界大戦以降の東アジアの歴史を学ぶ。具体的には、中華人民共和国の建国、中ソ同盟、朝鮮戦争、三反・五反運動、サンフランシスコ講和会議、経済復興の達成と国家体制の整備、ソ連の支援と第一次五カ年計画、農業集団化、工商業の公営化、スターリン批判の衝撃、百花齊放・百家争鳴、米ソの平和共存路線、大躍進運動、人民公社の出現と挫折、中ソ対立の激化、日韓基本条約、紅衛兵の出現と「造反有理」、中ソ国境紛争と米中和解、日中国交正常化、毛沢東の死と「四人組」の逮捕、農業請負制の導入、経済特区の設置、天安門事件、ソ連・東欧の社会主義体制崩壊の影響、経済発展と格差問題、汚職の蔓延と政治改革の課題など。	
	中国の政治と経済	この授業では、現在の中国を理解する上で不可欠な、政治と経済の仕組みを学んでいく。とりわけ、この授業では、現在の中国の政治の仕組みを中心に扱う。具体的には、中国共産党、中国人民解放軍、国務院、人民代表大会制度、中国人民政治協商会議、民主諸党派、憲法、政治体制改革、人事制度改革、機構改革、人民法院、人民検察院、司法改革、行政区画、一国二制度、民族自治制度、経済特区、直轄市、台湾問題、報道・出版政策、情報管理、宗教政策、人権問題、腐敗問題など。	
	中国の政治と経済	この授業では、現在の中国を理解する上で不可欠な、政治と経済の仕組みを学んでいく。とりわけ、この授業では、現在の中国の経済の仕組みを中心に扱う。具体的には、計画経済、ソ連モデル、五カ年計画、国家計画委員会、人民公社、「先富論」、郷鎮企業・私営企業・外資企業、「沿海地区経済発展戦略」、社会主義市場経済、アジア通貨・金融危機、分税制、国有企業改革、金融改革、WTO加盟、経済格差問題、失業問題、「中国脅威論」、オリンピック・パブル、エネルギー問題、環境問題、知的所有権侵害問題など。	
	東アジアの政治と経済	現代東アジア諸国の政治と経済の仕組みについて、韓国、台湾の事例を中心に講義を行う。歴史的経験と現在、独裁政権と経済発展、民主化とグローバル化といったテーマを取り上げ、国際情勢と国内情勢の関係性に重点を置きながら、東アジア諸国を分析するための枠組を考察するとともに、より広い視点からの理解を目指す。	
	東アジアの政治と経済	「東アジアの政治と経済」での学習内容に基づいて、韓国、台湾の政治と経済のあり方を再確認したうえで、日本の事例を加えて比較分析することで、各国の事例についての理解をさらに深める。また、グローバル化への各国の対応についても併せて考察する。	
	現代東アジア社会論	現在の中国社会を理解する上で、重要であると思われる事項を知ることを通じて、受講者の中国社会への理解を深めることを目指す。授業では、具体的に以下のような事項を取り上げていく予定である。 人口問題、人的移動、社会階層、都市と農村、エリートと大衆、民族問題、社会統制、家族関係、宗教政策、教育問題、就労問題、人権問題、福祉問題、医療問題、治安問題、文化政策、流行・風俗、婚姻、伝統文化と迷信など。	
	現代東アジア社会論	現代東アジアの社会について、韓国と台湾の事例を中心に講義を行う。韓国と台湾は、ともに戦後の冷戦体制下で東アジアの分裂国家の一方としての歴史を歩んできた。アメリカの影響と資本主義社会化、北朝鮮・中国の脅威の下で、韓国と台湾の社会がどのように発展を遂げてきたのか、共通点と相違点に注目しながら考察する。	
	東アジア関係論	東アジア国際関係の歴史的展開を中心テーマとする。18世紀までアジアは、世界の政治・経済の中心であった。19・20世紀は、欧米中心の世界となり、現在はまたアジアが世界の政治・経済の中心に復帰しつつある。この歴史的展開を、西洋の衝撃以前の東アジア国際政治・経済関係、19世紀中葉以後の東アジア（欧米の植民地・不平等条約体制下の）第2次世界大戦後の東アジア（1945～1960年代、1970・1980年代、1090年代～現在）に分けて詳説する。	
	東アジア関係論	日本と東アジアを中心テーマとする。第2次世界大戦後の日本は、西南アジア、東南アジア、東北アジアの順に政治・経済関係を深めてきた。戦前までの日本と東アジアとの政治・経済関係の展開を概観した後、日本とNIES諸国、日本とASEAN諸国、日本と中国の政治・経済関係の現在を詳説する。	
	中国語学概論	甲骨文字に始まる漢字の歴史、中古音を核とする音韻の変遷、中国語の構造と特徴を通観した上で、現代中国語の文法システムを体系的に捉え、中国語とはいかなる言語であるかを理解させることを目標とし、コミュニケーションの手段としての中国語の特徴を概観する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	中国語学概論	中国語学概論 で見たような中国語の文法的特徴を、定語・状語、動詞の態(1)(2)、語気助詞“了”、動詞の態(3)、動詞の態(4)(5)、“是…的”構文、程度補語、結果補語、方向補語、可能補語、時量補語、数量補語、兼語文、存現文、処置式文、受身、比較(1)(2)、複文に分けて考察する。	
	中国語学演習	語彙・言葉を中心テーマとする。音素、音位、音節の概念を把握し、母音要素と子音要素の分類、発音のやり方と国際音声記号の書き方、音位の分類、音位の区分と合併のやり方と音位の区別特徴、言語の発音と言語歴史変遷の現象と法則等について授業を行う。	
	中国語学演習	語義学を中心テーマとする。単語の意味とその分類を把握、言語の意味と意義の区別を理解し、簡単な意素(語彙の一番小さい単位)の分析と語彙場(同じ分類に所属単語の集合)の分析について理解する。語義学の構成とそのモデルも把握し、言語の脈絡と意義のつながりと語義学の歴史変遷も理解しながら、授業を行う。	
	中国文化演習	本講では、中国当代文学史における特別な作家である廬新華を選んで、彼の代表作『傷痕』を取り上げ、鑑賞することにより、その時代背景や、現代中国人の生活を理解する。またこの小説を読む・訳すことによって、閲読と理解の能力を向上させ、中国語の語学力向上を目指す。	
	中国文化演習	本講では、中国当代文学史における最も有名な作家である莫言を選んで、彼の代表作『枯れた河』を取り上げ、鑑賞することにより、その時代背景や、現代中国人の生活を理解する。またこの小説を読む・訳すことによって、閲読と理解の能力を向上させ、中国語の語学力向上を目指す。	
	中国の思想と文学	文学・歴史・思想など中国文化の様式や特性の形成を風土・言語など環境位相を通して、その現象と本質を考察し、「中国的」文化の要素を究明する。従って講義では中国の歴史意識・社会環境・文化特質・人生哲学の諸相を具体的な事例に則して、考察し解明することと、現代中国社会や生活環境に現れている中国思想を取り上げ、中国思想の変遷を探ることを論ずる。	
	中国の思想と文学	思想史を科学として進める立場では、なるべく自分の主観をまじえないようにして、客観的実証的であることが要求される。しかし同時に、研究の主体は現代に生きる自分であるから、古い思想を研究していても、それと自分との関わりを考察することも、一つの重要な課題となる。従って、講義では中国思想の特色として重要だと思うもの、しかも現代的な新しい積極的な意味を持つことができるかと考えたものを掲げることとする。	
	韓国語学演習	語彙・言葉を中心テーマとする。音素、音位、音節の概念を把握し、母音要素と子音要素の分類、発音のやり方と国際音声記号の書き方、音位の分類、音位の区分と合併のやり方と音位の区別特徴、言語の発音と言語歴史変遷の現象と法則等について授業を行う。	
	韓国語学演習	語義学を中心テーマとする。単語の意味とその分類を把握、言語の意味と意義の区別を理解し、簡単な意素(語彙の一番小さい単位)の分析と語彙場(同じ分類に所属単語の集合)の分析について理解する。語義学の構成とそのモデルも把握し、言語の脈絡と意義のつながりと語義学の歴史変遷も理解しながら、授業を行う。	
	韓国文化演習	この授業は、現在の韓国を理解するために必要不可欠な、韓国の様々な文化的特質について学ぶことを目的とする。授業では、たとえば、以下のような事項を学んでいく。韓国人の気質と文化、ユーモア、生活の知恵、処世術、家族制度、地縁・血縁、北方人と南方人の違い、在外韓国人の文化、西洋文明の影響、漢字文化の影響、周辺諸民族との交流と融合、儒教思想の影響、宗教、政治文化、保守主義と革新思想、権力観、農民反乱と王朝交代のサイクル、文学、芸術、建築、芸能、音楽、食事、余暇、ポップカルチャーなど。	
	韓国文化演習	韓国文化演習 に引き続き、現在の韓国を理解するために必要不可欠な、韓国の様々な文化的特質について学ぶことを目的とする。授業では、韓国の文化上の出来事を切り口として、韓国文化を理解することを目指すことにする。たとえば、以下のような事項を取り上げる。慶州石窟庵創建、金富軾『三国史記』、高麗版『大蔵經』出版、銅板活字の鑄造、儒教の国教化、『高麗史』完成、訓民正音施行、『経国大典』成立、中国より天主教伝来、洋暦「時憲暦」使用、『東国文献備考』の編集完成、キリスト教布教の活発化、洋学禁止など。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	韓国の思想と文学	韓国文学を正しく理解するためには、作品のなかに生きている伝統思想、または宗教的性格を考える必要がある。韓民族は固有の宗教を持たなかったこともあって、巫俗は古くからその生活と密接な関係を持っており、韓国文学のなかには巫俗の様相がいろいろな形で現れている。一方仏教は外来の宗教ではあったが、巫俗信仰と結合して、一つの別の宗教的性格を帯びた文学を生成させるにいたった。儒教は特にそれを国是とした李朝時代には、朱子学の性理学的文学観を確立するに至った。この授業では韓国文学と巫俗、仏教、儒学との関連を解き明かしてゆく。	
	韓国の思想と文学	思想面では朝鮮王朝時代の儒教と現代に至るまでのその影響を考える。文学では1443年にできた人工的文字ハングルで書かれた『春香伝』などの読み物が多く登場した。これらの古小説を読み、パンソリが文学に与えた影響についても考える。また近代文学からは1906年の李人植の『血の涙』と初の本格的長編小説李光洙の『無情』(1917)をとりあげる。詩では金芝河の『五賊』(1970)を読む。特に韓国では近代化、日本の植民地化など歴史的事柄の度に文学も揺れ動く、その流れも追う。	
	【日本研究プログラム】		
	日本史	日本の政治・文化の特色を国際交流を主たるテーマに、日本史の流れを日本史（原始時代から室町時代まで）と日本史（安土桃山時代から江戸時代まで）に分けて概観する。特に「狩猟漁労生活の展開と変容」「農耕生活と権力者の出現・発展」「律令社会と大陸の影響」「武士の起こりと武家政権（鎌倉時代）」「室町時代と前期封建社会の崩壊」を中心に扱う。	
	日本史	日本の政治・文化の特色を国際交流を主たるテーマに、日本史の流れを日本史（原始時代から室町時代まで）と日本史（安土桃山時代から江戸時代まで）に分けて概観する。特に「ヨーロッパ人の来航と天下統一」「江戸幕府の成立と鎖国」「学問の興隆と元禄文化」「封建社会の動揺と文化の成熟」「国際環境と幕府の滅亡」を中心に扱う。	
	日本民俗学	日本で創始された、日本独特の学問である日本民族学は、日本をもっともよく知ることができる学問分野といえる。日本の中で伝統的な生活をしている人々の生活文化を中心に「日本とは、何か」「日本人とは、何か」、さらには「日本らしさ」という課題をもって取り組む。では特に「民俗学とは何か」という統一課題を設定して、日本民族学の各分野について説明し、基礎的な知識を習得してもらう。	
	日本民俗学	では特に年中行事の中から、季節ごとの祭りや神事をやや詳しく論ずる。後半、日本民族学の創始者である柳田国男など、日本民族学の歴史を講ずる。	
	メディア文化論	何らかの情報・ニュースを伝えるメディアも無限の容量を持ち得ているわけではない。例えば、テレビは時間に制約される。新聞は紙面の制約がある。限定された枠で、何をどう伝えるかは、必然的に取捨選択されることになる。授業では新聞記事の面積を測ることによって、それぞれのメディア（新聞）の相対性を認識し、メディアの持っている本質に迫る。	
	日本文化研究入門	主として、歴史的な視点から、日本文化の特徴について述べる。具体的には、「日本人のアイデンティティー」「『古事記』と『日本書紀』」「和歌」「言霊」「聖徳太子」「神仏習合」「和魂漢才・和魂洋才」「日本人の自然観と労働観」「遣唐使」を取り上げる。	
	日本文化研究入門	本講義は比較文化の視点に立ち、アジアや世界の諸文化との関係を念頭におきつつ、現代日本人の生活に根付いた伝統文化の特徴について考察する。具体的には、「アジア・世界の中の日本文化：比較文化的アプローチ」「日本の伝統的な生活文化の概要：祭り、年中行事、食文化など」「日本文化の中の地域差：東日本・西日本の文化差、県民性の比較研究」「アジア諸国と日本の文化比較」を取り上げる。	
	日本社会研究入門	本講義は、日本社会の基本的な構造を念頭に置きつつ、さまざまな視点から社会問題をとらえ日本全体を理解することを目的とする。それぞれの問題の所在を認識するとともに、諸外国との比較についても考えていく。ビデオ教材や学外でのフィールドワークを取り入れて受講者が体験的に学習できるように工夫する。	
	日本社会研究入門	本講義は、日本社会が成り立つ基本的な構造とそれを取り巻く国際環境を理解するとともに、外国人として生活する上での権利・義務について認識することを目的とする。また、さまざまな社会問題を理解するための導入の役割を果たすことをねらいとしている。ビデオ教材や学外でのフィールドワークを取り入れて受講者が体験的に学習できるように工夫する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	日本文学研究入門	この授業は、日本の戦後文学に焦点を絞り、敗戦から高度経済成長の時代までのすぐれた短編小説を読むことで、戦後の日本社会がどのような問題を抱え、またそれらとどのように向き合ってきたのかについて考えていくことを目的とする。適宜、ビデオ、映画等を活用して時代の再現に努めたい。	
	日本文学研究入門	この授業は、日本近代文学に焦点を絞り、日本の近代文学史においても著名な作家の代表的な作品（主に短編）を選んで、学生諸君と一緒に精読する。作品の解説を通じて、内容の勉強だけでなく、日本人の思考様式、行動様式なども考察し、日本文学の魅力および日本文化の特質を考える。と同時に、描写法や文学的な表現、そして日本語として現段階では難しいとされる言葉遣いや文法などについても詳しく説明し、学生の日本語に磨きをかけ、正しい日本語を身につけさせる。	
	自由研究	4年次の卒業論文執筆を見据え、基礎的な研究に取り組む。テーマの立て方、文献の集め方、調査方法、分析方法、レポートの書き方などを指導する。また研究の経過報告、結果報告を通し、初歩的なアカデミック・プレゼンテーションも授業内で課す。	
	日本経営論	終身雇用や年功序列など、日本的経営の特徴を最初に確認する。これらの理解が得られた後、現代の経営上の課題であるIT化への対応やBPR、バランスコストカードなどの意義を考える。これらのテーマを理解した後、代表的な個別企業の事例を取り上げ、日本企業の現状と課題を考える。	
	日本経営論	日本の経済の歴史を、産業の発展をキーワードにして明治以降に焦点を当てて説明する。産業が発展する当初は、国家が中心となった。その後、インフラストラクチャーの整備に伴い民間資本による企業が日本経済の中心となっていった。これらの歴史的事実や国の役割、また産業構造の変容などを順次講義していく。	
	日本の政治と経済	国際化が進む中、日本の社会がどのような問題に直面しているのかを理解する。授業計画としては、次の3つのトピックをそれぞれ4、5回ずつ取り扱う。「日本経済の歩み」「日本の企業の特徴」「アジアと日本」。	
	日本の政治と経済	日本の経済状況は、経済指標からは景気拡大のように見える。しかし、我々の生活は景気の活況感が実感できるとはいえない。このような状況の中で、現在の日本が抱える経済上の問題や、それに対して日本政府がどのように対応しているかを考える。	
	日本語学概論	この授業では、現代日本語について文法を中心に受講生といっしょに考えていく。この授業の目標は「現代日本語に関する基本的な知識の習得と、特に現代日本語文法の理解」「言語分析の切り口の理解」「論理的な考え方と説明の仕方の訓練」の3点である。特に「現代日本語の文法の特徴」「格助詞」「ボイス」などを中心に取り上げる。	
	日本語学概論	この授業では、現代日本語について文法を中心に受講生といっしょに考えていく。この授業の目標は「現代日本語に関する基本的な知識の習得と、特に現代日本語文法の理解」「言語分析の切り口の理解」「論理的な考え方と説明の仕方の訓練」の3点である。特に「時間表現」「話し手の気持ちと捉え方」などを中心に取り上げる。	
	日本語学特別演習	この授業では、日本の随筆や小説、その他の文章を正確に読解し、その背景にある文化や書き手の考え、社会状況などを読み解いていく。また、文章の内容に対する感じ方や意見等について話し合っていく。	
	日本語学特別演習	「日本語学特別演習」同様、日本の随筆や小説、その他の文章を正確に読解し、その背景にある文化や書き手の考え、社会状況などを読み解いていく。また、文章の内容に対する感じ方や意見等について話し合っていく。	
	日本文化研究特論	以下に挙げる「日本人論・日本文化論」の代表的著作を取り上げ、「日本らしさ」に関する認識のあり方について考察する。参加者による討議・意見発表も行う予定である。「日本人論・日本文化論の系譜：『日本らしさ』『日本的なるもの』の探求」「『茶の本』と『武士道』：日本人の心とは何か」「『菊と刀』：アメリカ人文化人類学者の見た日本」「『タテ社会の人間関係』：日本的集団主義の思想」「『甘えの構造』：日本の自我・人格のあり方」「『世間とは何か』：日本の人間関係のルール」	
	日本文化研究特論	受講者は、日本の文化について、自分が興味を持っていることを調べて発表し、最終的にレポートとしてまとめる。授業の手順としては「受講者の発表」、「それに対する質問」、そして「ディスカッション」を設ける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	日本社会研究特論	各省庁が編纂している多種多様な白書・報告書を駆使し、かつ日々の新聞記事を使いながら、日本社会の姿を探求する。特論では、法務省の『犯罪白書』を主な参考資料として、日本の犯罪状況、犯罪傾向、他国に比べて低い犯罪発生率、その背景などを考察する。また、司法制度にも触れ、国民の司法参加である日本独自の「裁判員制度」の成立過程、運用実態を見ながら、司法面から日本社会の今を考える。	
	日本社会研究特論	特論と同様に、各種の白書や新聞記事を手がかりにして日本社会の姿を考えるが、主要なテーマを経済方面に絞る。内閣府編纂の「経済財政白書（年次経済財政報告）」や厚生労働省の「働く女性の実情」「労働経済白書」、経済関連の新聞記事など用いて、経済面からみた日本社会を考える。殊に、雇用問題では、今日的な問題として正規雇用と非正規雇用の二極化に触れ、卒業後の就職問題についても考えさせる。	
	日本文学研究特論	この授業では、古くから日本人に愛されてきた有名な俳句を取り上げて、日本的な文化・精神・美意識などについて講義する。具体的には、松尾芭蕉、与謝蕪村、小林一茶、加賀千代女、正岡子規、高浜虚子、水原秋桜子、中村草田男、種田山頭火の代表作品を扱う。また授業のまとめとして、各自俳句を作って、それを鑑賞する。	
	日本文学研究特論	この授業では、明治時代以降の近代短歌の中から、日本近代文学史に登場する主な作家・作品を取り上げ、日本的な文化・精神・美意識などについて講義する。具体的には、正岡子規、石川啄木、斎藤茂吉、若山牧水、近藤芳美、塚本邦雄、馬場あき子、寺山修司、俵万智の作品を扱う。また授業のまとめとして、各自短歌を作って、それを鑑賞する。	
	日本語日本文化特論	日本語ネイティブにとって、また、日本語を勉強している留学生にとって、最も身近な言語である日本語を一つの言語として眺めてみるとどんなことがわかるだろうか。私たちは言語で文を作ったり、理解したりするときに、その言語の文法を駆使する。その「文法」とは、文を作ったり理解したりするためのしくみのことである。この授業では、日本語を客観的に眺め、基本的なそのしくみと特徴を理解すると同時に、さらに、日本語の文法の規則性を見つけ出して日本語の全体像を概観するとともに、日本語の様々な特徴について考える能力を身につけることを目的とする。また、外国人に日本語を教えるという日本語教育の立場からも日本語を見直し、現代日本語文法の論点や問題点を検討する。	
	日本語日本文化特論	日本語にはどのような言語現象があり、具体的な用例として、その言語現象にどのようなものが観察されるのだろうか。この授業では、現代日本語を対象として、その文法のしくみ、すなわち統語論・意味論等から日本語文法を具体的に考察することを目的とする。現代日本語を文法的に記述する手法と能力を身につけるためのひとつの方法として、用例採集およびその分析・考察があるが、実際にいくつかの日本語文法上のテーマを取り上げ、そのテーマに関する用例を集めて、その意味と用法を分析し、現代日本語の体系的なありようを掌握する。また、外国人に日本語を教えるという日本語教育の立場からも日本語を見直し、現代日本語文法の論点や問題点を検討する。	
	日本文化フィールドワーク	この授業では日本文化を訪ね、長崎を離れる。受講生は、訪問先の選定からスケジュールの作成まで一切を自身で企画する。ただの旅ではなく、事前に文化的な建造物の歴史的背景などを十分に調べるなどし、無駄なく効果的なフィールドワークとなるよう心がけてもらいたい。	
	【留学科目】		
	社会文化特別研究	留学によって得た学修成果を所定の方法によって評価し、単位を認定する。	
	社会文化特別研究	留学によって得た学修成果を所定の方法によって評価し、単位を認定する。	
	【プロジェクト】		
	多文化共生プロジェクト	「比較社会文化」、「ヨーロッパ」、「アジア」、「日本」の各分野または分野横断的な領域に関するプロジェクトを設定し、プロジェクト遂行のための実践活動を通して、語学力、コミュニケーション能力、専門知識の総合化を図る。学科横断的なプロジェクトを設定する場合もある。	
	多文化共生プロジェクト	「比較社会文化」、「ヨーロッパ」、「アジア」、「日本」の各分野または分野横断的な領域に関するプロジェクトを設定し、プロジェクト遂行のための実践活動を通して、語学力、コミュニケーション能力、専門知識の総合化を図る。学科横断的なプロジェクトを設定する場合もある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目		【卒業研究】		
		卒業研究	学科専門領域の、準備的な研究を行い、その成果をレポート等により提出する。別に定める方法により所定の単位を認定する。	
		卒業研究	学科専門領域の、より進んだ研究を行い、その成果を論文等により提出する。別に定める方法により所定の単位を認定する。	
語 学 科 目	ド イ ツ 語 科 目	ドイツ語講読	ドイツ語の読解力をつける。初習者対象なので、まず基本的な語彙、簡単な文章表現を覚えることから始める。それと同時に文法事項にも簡単に触れながら、文構造の理解をはかって行く。ドイツ語の読み方、辞書の引きかたに慣れていく。	
		ドイツ語講読	ドイツ語講読Ⅰを発展させ、語彙、表現をさらに増やしていく。やさしいドイツ語の文書をテキストとして、辞書を用いてドイツ語の文を読む基礎的な訓練をする。	
		ドイツ語文法	ドイツ語の最も基礎的な文法をわかり易く解説し、さらに豊富な練習によって、しっかりした基礎を身につけさせる。	
		ドイツ語文法	やや高度な文法をわかり易く解説し、かつ、作文など発信型の学習等も取り入れてドイツ語文法に関する総合的能力を習得させる。	
		ドイツ語会話 A	ゼロから始めてドイツ語のコミュニケーション能力の育成を目指す。発音練習、対話の組み立て、聞き取り練習、朗読、発話練習が授業内容である。会話ⅠAでは特に発音、対話の組み立て、聞き取り練習を中心に授業をする。	
		ドイツ語会話 B	ドイツ語会話ⅠAと同様に、ゼロから始めてドイツ語のコミュニケーション能力の育成を目指す。発音練習、対話の組み立て、聞き取り練習、朗読、発話練習が授業内容である。会話ⅠAでは特に発音、対話の組み立て、聞き取り練習を中心に授業をする。	
		ドイツ語会話 A	ドイツ語会話ⅠAに引き続きドイツ語のコミュニケーション能力の向上を目指す。会話ⅠAでは発音、対話の組み立て、聞き取りのレベルアップを図るとともに、朗読や発話練習を取り入れた授業を行なう。ドイツ語検定5～4級を目指す。	
		ドイツ語会話 B	ドイツ語会話ⅠBに引き続きドイツ語のコミュニケーション能力の向上を目指す。会話ⅠBでは発音、対話の組み立て、聞き取りのレベルアップを図るとともに、朗読や発話練習を取り入れた授業を行なう。ドイツ語検定5～4級を目指す。	
		ドイツ語演習	ドイツ語を読む、書く、話す、聴く力を総合的につける。特に練習問題を多く取り入れることで、文法、講読、会話の授業の復習も兼ねる。ドイツ語検定5～4級を目指す。	
		ドイツ語演習	ドイツ語を読む、書く、話す、聴く力を総合的につける。特に練習問題を多く取り入れることで、文法、講読、会話の授業の復習も兼ねる。ドイツ語検定5～4級を目指す。	
		ドイツ語講読	ドイツ語の読解力を養う。文法の復習をすると同時に、語彙や表現を増やしながらか、読解力を高めていく。	
		ドイツ語講読	ドイツ語の読解力を養う。文法の復習をすると同時に、語彙や表現を増やしながらか、読解力を高めていく。	
		ドイツ語文法	ドイツ語の文構造をつかむ。ドイツ語の語順で重要なのは定動詞の位置を中心とした語配列である。これさえ見極めることができるようになれば、ある程度の長文も読めるようになる。日独英各言語の比較によってそれぞれの文構造の特徴を明確に捉えるのがねらいである。	
		ドイツ語文法	ドイツ語の文構造をつかむ。ドイツ語の語順で重要なのは定動詞の位置を中心とした語配列である。これさえ見極めることができるようになれば、ある程度の長文も読めるようになる。日独英各言語の比較によってそれぞれの文構造の特徴を明確に捉えるのがねらいである。	
		ドイツ語会話	1年次に学んだ語彙や表現をもとに、さらに語彙を増やしながらか、生活レベルでのさまざまな一般的テーマについて自分の意見を述べたり説明できるようにする。同時に相手の言っていることを理解する訓練も行う。これらの学習を通して、相互に正しい受け答えができ、コミュニケーションを成立させる能力を養う。	
		ドイツ語会話	ドイツ語に引き続き、語彙や表現を増やすとともに、会話の運用能力を高める訓練を行う。	
		ドイツ語作文	ドイツ語で短い自由作文を書く練習をする。ドイツ語で自分の考えをまとめ、相手に意図を伝える訓練をする。	
		ドイツ語作文	与えられたテーマに従って、少し長めの作文をする。また与えられたテキストを指示された字数に要約する訓練をする。	
		ドイツ語作文	中級レベルのドイツ語作文能力を養う。さまざまなテーマに従って、作文をする訓練を行なう。文法の復習、多様な表現や言い回しなどの習得を通して、総合的なドイツ語能力の向上につなげ	
		ドイツ語作文	中級レベルのドイツ語作文能力を養う。さまざまなテーマに従って、作文をする訓練を行なう。文法の復習、多様な表現や言い回しなどの習得を通して、総合的なドイツ語能力の向上につなげ	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
語学科目	ドイツ語会話上級	ドイツ語でのコミュニケーション能力の向上を目指す。複雑な会話や議論にも対応できるように、話す、聴く、理解する、議論する力を高める。ドイツ語検定3～2級を目指す。	
	ドイツ語会話上級	ドイツ語でのコミュニケーション能力の向上を目指す。複雑な会話や議論にも対応できるように、話す、聴く、理解する、議論する力を高める。ドイツ語検定3～2級を目指す。	
	ドイツ語表現法	ドイツ語による討論の方法、高度な内容をもった文章の作成の仕方を学ぶ。各回ごとにテーマを設け、それについて討議し、プロトコルを作成する。テーマに即して論理的な文章を組み立てる訓練をする。	
	ドイツ語表現法	ドイツ語のレトリックを学ぶ。機能動詞を用いた熟語表現、隠喩表現や婉曲表現を学び、豊かにドイツ語の表現ができるよう訓練する。	
	時事ドイツ語	時事問題を扱ったドイツ語を読む。ドイツ語圏におけるさまざまなニュースを読み、時事的な内容と表現に慣れる。さらに文法事項の確認、表現練習も取り入れて、多面的なドイツ語能力の養成を目指す。	
	時事ドイツ語	時事ドイツ語Iに引き続き、時事問題を扱ったドイツ語を読む。ドイツ語圏におけるさまざまなニュースを読み、時事的な内容と表現に慣れる。さらにニュースの聞き取りも取り入れて、多面的なドイツ語能力の養成を目指す。	
	ビジネスドイツ語	ビジネスに対応できるドイツ語の語彙、言い回しを徹底的に学習する。ビジネスにおいて想定されるEU事情や、政治、経済、法律用語等を集中的に学習する。	
	ビジネスドイツ語	実際のビジネスを想定したプレゼンテーション、質疑応答、議論と修正ができるよう実践的なドイツ語力を養う。	
	独日翻訳演習	ドイツ語のテキストの読解をし、日本語への翻訳訓練をする。日本語とドイツ語の特徴と違いを考えながら、自然なわかりやすい日本語を念頭に翻訳文を作成する。	
	独日翻訳演習	ドイツ語のテキストの読解をし、日本語への翻訳訓練をする。日本語とドイツ語の特徴と違いを考えながら、自然なわかりやすい日本語を念頭に翻訳文を作成する。	
	ドイツ語文献講読	ドイツ語圏の社会、文化に関する文献から選択した文章を読む。文献の読解力を養うとともに、ドイツやドイツ語を話す国々についての理解を深める。	
	ドイツ語文献講読	ドイツ語文献講読と同様に、ドイツ語圏の社会、文化に関する文献から選択した文章を読む。文献の読解力を養うとともに、ドイツやドイツ語を話す国々についての理解を深める。	
	【任意科目】		
	ドイツ語演習	ドイツ語運用の基礎力を徹底的に養う。ドイツ語の語形変化や語順、構造を確実に把握できるよう、さまざまな表現や文章を覚えながら、ドイツ語文法の基礎も固める。	
	ドイツ語演習	ドイツ語運用の基礎力を徹底的に養う。ドイツ語の語形変化や語順、構造を確実に把握できるよう、さまざまな表現や文章を覚えながら、ドイツ語文法の基礎も固める。	
	ドイツ語演習	難易度の高い文章を聞き、読み、高度な内容をもったドイツ語を話し、書けるように、ドイツ語運用能力の向上を目指す。	
	ドイツ語演習	難易度の高い文章を聞き、読み、高度な内容をもったドイツ語を話し、書けるように、ドイツ語運用能力の向上を目指す。	
	【留学科目】		
	ドイツ語特別実習	ドイツの協定大学に留学し、留学中に修得した単位を認定する。	
	ドイツ語特別実習	ドイツの協定大学に留学し、留学中に修得した単位を認定する。	
フランス語科目	フランス語講読	フランス語の読解力をつけることを目的とする。まずはフランス語の基本的な語彙や表現、フランス語の文の組み立て方をおぼえることを主眼に授業を行う。初級文法の前半（目安としては複合過去あたりまで）の範囲内であれば、フランス語の文章も読めるところまでをもってゆく。	
	フランス語講読	フランス語講読の続きとして、基礎的な読解力の養成につとめる。文法的には初級文法終了程度つまり条件法、接続法まで含むフランス語の文章が読めるようにする。	
	フランス語文法	挨拶や自己紹介をするための基本のフランス語文法の説明から入り、日常生活ですぐ使える文章を理解し、自分でも簡単な文章が作って、すぐに発話ができるような指導をする。文字だけではなく、視覚的、聴覚的にも文法の規則を理解させるために、切り抜きの絵やビデオを利用し、入門の段階で文法の規則を聴覚的にも理解する訓練をし、新しい言葉を効率よく、覚える学習方法を指導する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
語学 フランス 学 科 目	フランス語文法	文章を聞く練習は続けながら、フランス語の動詞の活用を中心に学習させ、現在のみではなく、過去や未来の時制も理解し、表現できるように指導する。絵を用い、場所や出来事の説明を書いて説明できるようにもする。1年の終わりには、学習した文法事項を使って、一日の出来事を書いたり、簡単な手紙が書けるようになることをめざす。フランス語検定4級から3級レベルまでに対応する内容となる。	
	フランス語会話 A	挨拶、自己紹介、他人の紹介、物や位置の説明、時間や天候に関して語る、など日常会話の基本になる語彙と表現を覚えさせ、フランス語の基本の構文を活用しながら、現在のことを話すが出来るようにする。	
	フランス語会話 B		
	フランス語会話 A	語彙の範囲を増やし、食事や買い物、体や健康、趣味や旅行に関する表現を覚えさせ、1日の出来事を物語ったり、過去の出来事や未来のことも話せるような練習を行う。1年の終わりには、日常生活の会話に必要な基本の語彙は修得し、使えるようになることを目指す。	
	フランス語会話 B		
	フランス語演習	よく使われるやさしい表現の発音練習を通じて、フランス語の発音の基礎を教える。フランス語の綴り字の読みかたも理解し、覚えられるように指導する。同時に、聞きとりの力も養う。フランス語検定試験5級レベルの聞きとりは出来るようになることを目指す。	
	フランス語演習	演習に引き続き、リズムとかアクセントを考えた発音練習を続けさせ、発話がフランス人に十分伝わるレベルになることを目指す。詩の暗唱も指導し、1年の終わりには発音の基本は修得させることを目指す。また聞きとりの訓練も行い、フランス語検定試験4級レベルの聞きとりは出来るように指導する。	
	フランス語講読	中級レベルのフランス語テキスト読解の訓練をする。1年次では十分にふれる時間がなかった文法事項や語法についても解説することによって、文法的理解を深めながら読解力の養成につとめる。	
	フランス語講読	フランス語講読の続きとして、さらにレベルの高い内容のテキストを読んでゆく。また、テキストの読解とともに、日本語への翻訳のしかたも教えながら、3年次の仏日翻訳演習への準備も行う。	
	フランス語文法	1年で修得した文法の基礎を復習し、フランス語の語彙を増やしながら、構文の定着をめざす。CDを活用し、聞きとりの力をつけ、内容理解を確認するフランス語での質問にフランス語で答える練習も行う。仏検3級およびフランス政府の実施している検定試験DELF-A1・A2レベルの語学力を目標とする。	
	フランス語文法	中級文法の学習を行う。文章を書く練習も行う。語学的には仏検準2級およびDELF-B1レベルの力をつけることを目標とする。	
	フランス語会話	1年で修得した語彙を活用し、さらに語彙を増やすとともに、自分の身の回りに起こりうる、いろいろな場面を想定して、会話が出来ることをめざす。相手の言っていることも理解し、コミュニケーションを成り立たせる訓練を行う。DELFの第一段階A1、A2のオーラルの試験に合格できるような、日常会話の運用能力をつけさせる。	
	フランス語会話	日常会話の運用能力をさらにつけるため、自分の意見を言えるような語彙と表現を修得させる。簡単な資料をみて、描かれていることを、相手にわかるように説明したり、自分に関することを、くわしく説明し、話す事の出来る力をつけるように指導する。また相手の発話も理解し、コミュニケーションが出来るように聞き取る力もつけさせる。	
	フランス語作文	フランス語で短い自由作文を書く練習をする。自分の考えをフランス語で説明し、相手にわかるようにまとめあげる訓練をしながら、フランス語の作文力をつける。スピーチにも使えるような文章にしあげていく。	
	フランス語作文	作文で学んだことを基礎に、さらに長い文章がまとめられるように訓練する。フランス式に考え、論理を展開させ、結論を出すことを教え、それを活用させる。文章の組立に、必要な表現や語彙も修得する。	
	フランス語作文	フランス語作文・を学んだことをふまえながら、手紙、報告、案内、紹介記事などがフランス語で書けるようにする。DELF-A2レベルの力をつけることを目標とする。	
	フランス語作文	作文をさらに発展させ、より高度な運用能力をつけさせる。DELF-B1レベルの作文力をつけることを目標とする。	
	フランス語会話上級	会話の運用能力をさらにつけさせるとともに、与えられたテーマに関して、自分の意見を言い、また反対意見の相手と議論できる訓練を行う。DELF-A2レベルのフランス語表現能力と運用能力をつけさせる。	
	フランス語会話上級	フランス語会話上級をさらに発展させ、より高度な会話能力をつけさせる。DELF-B1レベルの表現・運用力をつけることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
語学科目	フランス語表現法	フランス語による口頭表現と文章表現の両方にわたって、より高度な運用能力を身につける。	
	フランス語表現法	フランス語表現法 をさらに発展させ、より高度な運用能力をつけさせる。口頭表現と文章表現ともに、DEL F-B2レベルの力をつけることを目標とする。	
	時事フランス語	政治・経済・社会・文化等に関するフランスの最新情報を伝える新聞記事を読んだり、ラジオやテレビ放送、さらにはインターネットも活用して、アクチュアルなフランス語に触れることを目的とする。	
	時事フランス語	時事フランス語 の続きとして、政治・経済・社会・文化等に関するフランスの最新情報を伝える新聞記事を読んだり、ラジオやテレビ放送を、さらにはインターネットも活用して、時事フランス語の読解力を養成する。	
	ビジネスフランス語	企業における会話（仕事の約束、仕事について、電話での対応）のヒアリングでの内容理解、実務的な文章の読解を試す問題を解く。ビジネスレターの基本的なスタイルについても学ぶ。語学レベルとしてはDEL F-B1に対応するレベルの文章を扱う。	
	ビジネスフランス語	ビジネスフランス語 で学んだことをさらに発展させる。実務的な文章の読解能力を高めるとともに、ビジネスレターの返事や、資料を読んで情報を問い合わせるような文章を書く練習も行う。語学レベルとしてはDEL F-B2に対応するレベルの文章を扱う。	
	仏日翻訳演習	フランス語テキスト読解の訓練と日本語への翻訳の仕方を学ぶ。単なる訳読ではなく、フランス語と日本語の違いに注意しながら、フランス語の特徴を知り、また実際に日本語にどう翻訳したらよいかを考える。	
	仏日翻訳演習	仏日翻訳演習 の続きとして、翻訳の訓練を行う。学生がどれだけテキストの内容を正確に把握しているか、それを適切な日本語にうつしかえているかどうかも見ながら、翻訳技術の修得を目指す。	
	フランス語文献講読	ギリシャ・ローマから中世、ルネッサンス、近代の哲学・思想書を選び、その抜粋をフランス語訳あるいはフランス語原典で読む。	
	フランス語文献講読	近・現代の哲学・思想あるいは評論からテキストを選び、フランス語原文を丁寧に読む訓練を重ねることによって、読解能力を高めることを目指す。	
	【任意科目】		
	フランス語演習	一年で修得した文法の基礎を活用し、語彙を増やししながら、構文の定着をめざす。口語フランス語の運用能力の養成のため、音声・動画教材を活用し、聞きとりの力をつけるながら、内容理解を確認する。フランス語での質問にフランス語で答える練習も行う。フランス政府の実施している検定試験 DEL F-A1 の試験に合格できるような語学力をつけさせる。	
	フランス語演習	種々の文体のフランス語の文章を読んで、書かれている内容（意見や感情）の理解ができ、フランス語で説明できる力をつけさせる。フランス政府の実施している検定試験 DEL F-A2 の試験に合格できるような語学力をつけさせる。	
	フランス語演習	時事的な内容のフランス語テキストを中心に取り上げながら、フランスで生活した場合、日常生活の中で実際に目にするようなフランス語の文章が読めるようにする。初級から中級レベルへのスムーズな移行ができるよう、最初は比較的やさしいテキストからはじめ、徐々に難しい文章へと移って行く。	
	フランス語演習	フランス語演習 を引き継ぎ、レベルをさらに上げて、フランス人が実際に日常生活の中で接するような文章（広告、掲示、案内・解説文などから新聞や雑誌の記事まで）を読んでみる。フランス政府の実施している検定試験 DEL F-B1 の試験に合格できるような語学力をつけさせる。	
	【留学科目】		
	フランス語特別実習	フランスの協定大学に留学し、留学中に修得した単位を認定する。	
	フランス語特別実習	フランスの協定大学に留学し、留学中に修得した単位を認定する。	
中国語科目	中国語講読	初心者対象として、まず最も基礎的な教材を使って、基本的な語彙、簡単な文章表現や文法事項などの中国語の基本を学ぶ。基礎的な表現を習得するだけでなく、音読を繰り返すことにより、中国語の正しい発音やリズムも併せて身につける。	
	中国語講読	「中国語講読」での学習内容を踏まえて、中国語検定4級に相当する程度の中国語能力の習得を目指す。さらにレベルアップした表現を習得するだけでなく、音読を繰り返すことにより、中国語の正しい発音やリズムのさらなる定着を図る。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
語 学 科 目	中国語文法	この授業では、中国語を理解する上で、必要不可欠である文法事項を学ぶ。授業では、とりわけ以下の点に重点を置くことにする。 ・中国語の基本的特徴を理解する。 ・中国語と日本語の違いを、きちんと認識する。 ・中国語の面白さを理解する。 具体的には、以下の内容を学んでゆく。 数の数え方、人称代名詞、指示代名詞、量詞、親族呼称、連体修飾語、形容詞述語文、肯定文、否定文、疑問文、副詞、年月日・曜日・時刻の言い方、年齢や出身地の聞き方、疑問視の特別用法、選択疑問文、自動詞、他動詞など。	
	中国語文法	に続き、以下の点に重点を置きながら学んでゆく。 ・練習問題を数多くこなすことにより、文法で学んだ事項の再確認および定着を図り、中国語の特徴への理解を深める。 ・中国語の実践的な運用能力を養成する上で不可欠である基礎的な力を身に付けさせる。 具体的には、以下の内容を取り上げる。 アスペクト、動量詞、存在文、存現文、出現消失文、自然現象に関する文、助動詞、動詞の重ね型、形容詞の重ね型、結果補語、方向補語、可能補語、程度補語、処置文、比較文、前置詞の用法、受身文、使役文、兼語文、感嘆文、成語述語文など。	
	中国語会話 A	この授業では、主に発音を勉強し、中国語の発音の特徴を認識、熟知、把握できるようにする。例えば：子音、母音、発音の位置と方法、声調（四声、轻声）、儿化音などの発音の特徴。それと同時に比較的簡単な会話、一般的な日常会話を学ぶ。また、会話の語彙を増やし言葉のいろいろな表現形式も身につけてゆく。	
	中国語会話 B	先ず中国語の発音をコンピュータ教材を利用しながら徹底的に学ぶ。特に音節表を確実に発音できるようにする。次に平易な中国語の基礎力を身に付ける。あいさつ、自己紹介、日常の生活会話ができるようにする。また中国語検定試験に焦点を合わせ、基礎単語約500を身に付け、ピンインの読み方綴り方を習得し、単文の基本文型をマスターし、簡単な日常挨拶語50～80を身に付けているというレベルの中検準4級程度の実力をつける。そのために模擬試験を行い、Web上で復習できる教材を用意する。	
	中国語会話 A	下記の日常会話を学ぶ。 初めまして、学校を参観しましょう、私の家族、彼女今日は中国語の授業があります、私は朝いつも早く起きます、どこへ行きましたか、私は北京ダックを食べた事はなかった、家庭教師をやります、彼女は水泳に行きました、明日のお天気はどうか、休み中に帰国して休日を過ごす、など。	
	中国語会話 B	中国語検定試験に焦点を合わせ、中国語の基礎的事項をマスターし、平易な文章を聞き、話すことができ、常用語500 - 1000を習得しているというレベルの中検4級程度の実力をつける。そのために模擬試験を行い、Web上で復習できる教材を用意する。	
	中国語演習	この授業では、聴力、会話、読み、書きの練習を通して、中国語の習得を目的とする。また、中国の文化を理解してもらうために、映画を見させて、中国の有名な都市や名所旧跡、風俗習慣を紹介する。更に、中国の歌の勉強や漢詩の朗読を行い、中国語と中国文化に対する理解を強化する。	
	中国語演習	単語と語句の書き取り。会話文の暗誦。これによって中国語の四声などの発音規則を習得する。 グループ分けて会話文を作って練習する。場面を設定し、模擬練習をする。小テストも随時行う。	
	中国語講読	中級レベルの中国語を学ぶ。1年次に身につけた中国語の基本的な知識をもとに、ある程度の分量があるテキストを使って、中国語を実践的に利用する際に必須とされる語彙や文型、決まり文句の習得に努める。	
	中国語講読	中国に関する話題をテーマにした、中級レベルのテキストや教材を使用して、中国の社会状況や生活習慣への理解を深めると同時に、さらなる読解力と応用力の向上を図る。	
	中国語文法	中国語検定試験に焦点を合わせ、4級レベルから始め、中国語の基礎的事項をマスターし、平易な文章を聞き、話すことができ、常用語500 - 1000を習得することを目標とする。そのために模擬試験を行い、Web上で復習できる教材を用意する。	
	中国語文法	中国語検定試験に焦点を合わせ、中国語の一般的事項をマスターし、簡単な日常会話が可能で常用語1000 - 2000を習得しているというレベルの3級程度の実力をつけることを目標とする。そのために模擬試験を行い、Web上で復習できる教材を用意する。	
	中国語会話	中国語検定3級のレベルに相当する日常会話を主に学ぶ。会話形式と内容は多種多彩で、日本の学生が中国で一人暮らしをするときに役に立つはずである。会話のパターンにあった文型と文法もあわせて学ぶことにする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
語 学 科 目	中国語会話	下記の内容を学ぶ。 こんにちは！（日常の挨拶、自己紹介）、今何時ですか？（日時をたずねる）、そのセーターはいくらですか？（値段を尋ねる、値切る、サイズや色などを指定する）、官保鶏庁を一品お願いします。（料理の注文、勘定）、どこで働いていますか？（家族、職業と年齢を尋ねる）、彼女はいらっしゃいますか？（電話での表現）、まっすぐ行きます。（道を探ねる・道を示す）、ご新居はどこにありますか？（方角を表す）、どうしたんですか？（具合を尋ねる）、パソコンが修理できますか？（能力や趣味を述べる）すごく寒いですね！（気候・天気）、テーブルを拭いてください。（家事に関する表現）	
	中国語作文	中国語作文の初級段階。一步一步順を追ってしっかりと授業を進めてゆく。既に学習した漢字や文法や語彙等の中国語の知識を使った文章表現力に加え、短く、簡単な平叙文、説明文、論説文における文章力の向上を目指す。	
	中国語作文	以下のことを学ぶ。 漢字の基本的な画、漢字の構成、漢字と語句の関係、常用漢字と語句の組み合わせ等。簡単な疑問文、平叙文、感嘆文と基本的な4つの文章記号等。簡単な個人の履歴書・自己紹介文の書き方。自分の家族を紹介する書き方。簡単な日程の手配をするときの書き方。個人の簡単な経歴と将来の計画を述べる書き方。自分の趣味と好きな事を紹介する書き方。部屋にあるものを説明するときの書き方。地理と交通路線を紹介するときの書き方。簡単な品物を紹介・描写するときの書き方。休暇願いの書き方、など。	
	中国語作文	言葉はまず使うものであるから、技能的な訓練がどうしても必要となる。しかし、技能的訓練は一人歩きができない。したがって、三年生の作文授業は中国語の基本文型を把握し、センテンスの作る練習を中心とする。	
	中国語作文	ある表現がどのようになされるか、その知識を学生達に与える。この知識を活用して、中国語を生み出す。基礎文法を利用して、文の作り方を勉強します。	
	中国語会話上級	中国語検定2級のレベルに相当する日常会話の常用表現の活用を主に学ぶ。学生が自由自在に中国語で自分の考え、感情、意思を表現できるようになることを目標にしながら、社会人としてのコミュニケーション能力を高める。	
	中国語会話上級	以下のような場面を想定しながら、実践的な会話能力の習得を目指す。 明けましておめでとうございます！今日は私がおごります！貴方の名前は何ですか？未長く！暇があれば、遊びに来て下さい。何を送るべきだろうか？京劇を見に行きましょう。私は書道を練習しています。故郷を思う。北京の四合院。貴方は泰山に行ったことがありますか？彼女はタイ族ですか？	
	中国語表現法	以下の点を主に学ぶ。 ビジネス活動に関連する、基本的な日常中国語の知識。中国におけるビジネスについての実際的な知識。自文化にとらわれず交際できる能力を身に付けること、など。	
	中国語表現法	に続いて、中国人とのコミュニケーションを円滑に進め、成功するための実践的な会話能力を身につける。あわせて、中国におけるビジネスの知識や中国人との交際にあたって心がけるべきことなども学んでゆく。	
	時事中国語	中国語で中国や世界の時事問題を学ぶ。新聞、雑誌などの時事問題を扱った記事を読みこなす際に必須の語彙、文型、表現法の習得を図るとともに、特定の時事問題への理解を深め、読解力のいっそうの向上を目指す。	
	時事中国語	実際の新聞、雑誌の記事を題材として、自らの力で生の中国語から情報を収集する能力を養成するとともに、中国人の視点や思考様式を客観的に捉えられるように努める。また、様々な内容の記事を多読することにより、中国の政治、経済や社会、および国際情勢に対する理解を深める。	
	ビジネス中国語	集中的な強化訓練として「聞く」と「話す」を一体化させて授業を行う。ビジネスの現場の実例を多数取り入れながら、言葉の学習とケーススタディーを結びつけ、ビジネスで生じる問題を分析、解決できるようにする。また、ビジネス関係のロールプレイにより、学習者が積極的に課題に取り組むように聴解練習と会話練習の場面に主眼をおき、学習者が実際のビジネスの世界に馴染めるようにする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
語 学 科 目	ビジネス中国語	授業では次のようなことを取り上げる。 ・自分や他の人の紹介、職位や肩書き言う、名刺を作る ・組織の構成の説明、仕事の内容紹介、面接の受け方 ・飛行機のチケットを予約する、仕事の手配、日常の仕事ぶりを紹介する ・会社の位置を説明、宅配サービスを知る、商品を注文する ・オンラインショッピング、インターネットのよる事務処理、ネットワークミーティングに参加 ・簡単なマーケティング知識、広告に関する意見を言う ・財務管理、ビジネスコンサルティング、会社の経営戦略 ・企業文化、企業の会社貢献	
	中日翻訳演習	この授業では、第一に、中国語文を自然な日本語文に翻訳する訓練をする。第二に、中国語文の読解のみならず音読も行うとともに、日本人が誤りやすい重要な文法事項をも取り上げ、総合的な中国語能力の向上をはかる。第三に、中国語文の読解のみならず音読の練習も行う。第四に、日本人が誤りやすい重要な文法事項をも取り上げ、総合的な中国語能力の向上をはかる。	
	中日翻訳演習	に引き続き、この授業では、第一に中国語を自然な日本語に翻訳する訓練をする。第二に、中国語を使って仕事をする際に、必要不可欠であると思われる中国語表現も習得できるよう指導するつもりである。第三に、中国語文の読解のみならず音読の練習も行う。第四に、日本人が誤りやすい重要な文法事項をも取り上げ、総合的な中国語能力の向上をはかる。	
	中国語文献講読	現代中国に関する学術的な論文や著作の中から、選りすぐった文章を教材として、学術文献を読みこなす際に語彙、文型、表現法の習得を図るとともに、現代中国の様々な側面に対する理解を深める。	
	中国語文献講読	「中国語文献講読」での学習内容を踏まえて、学術的な論文や著作をさらに読みこなす作業を通じて、より高度で実践的な読解力を身につけ、その定着を図る。	
	【任意科目】		
	中国語演習	中国語運用の基礎力を徹底的に養う。一年で修得した語彙・表現・文法の基礎を活用し、語彙を増やしながら、運用能力の向上もはかる。	
	中国語演習	中国語運用の基礎力を徹底的に養う。一年で修得した語彙・表現・文法の基礎を活用し、語彙を増やしながら、運用能力の向上もはかる。	
	中国語演習	難易度の高い文章を聞き、読み、高度な内容をもった中国語を話し、書けるようにする。中国語の運用能力のさらなる向上を目指す。	
	中国語演習	難易度の高い文章を聞き、読み、高度な内容をもった中国語を話し、書けるようにする。中国語の運用能力のさらなる向上を目指す。	
	【留学科目】		
	中国語特別実習	留学中の中国語学修の成果を評価して所定の単位を認定する。	
	中国語特別実習	留学中の中国語学修の成果を評価して所定の単位を認定する。	
	韓国語講読	初心者対象として、まず最も基礎的な教材を使って、基本的な語彙、簡単な文章表現や文法事項などの韓国語の基本を学ぶ。基礎的な表現を習得するだけでなく、音読を繰り返すことにより、韓国語の正しい発音やリズムも併せて身につける。	
	韓国語講読	「韓国語講読」での学習内容を踏まえて、さらなる韓国語能力の習得を目指す。さらにレベルアップした表現を習得するだけでなく、音読を繰り返すことにより、韓国語の正しい発音やリズムのさらなる定着を図る。	
	韓国語文法	韓国語の基礎的な文法事項を学ぶ。授業では、とくに以下の内容を中心に学んでゆく。 代名詞、助詞、存在詞、名詞の終止形、動詞・形容詞の終止形、動詞・形容詞の不規則活用、過去形、疑問形、否定形、現在連体形、過去連体と未来連体など。	
	韓国語文法	に引き続き、文法で学んだ事項の再確認および定着を図り、韓国語文法の基本を身につける。この授業では主として以下の内容を扱う。 未来形、文の連結、進行形、可能と不可能、願望、命令と依頼、禁止、理由や原因を表す表現、仮定、意志、推測、勧誘、義務、語尾のいろいろ、副詞のいろいろなど。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
語 学 科 目	韓国語会話 A	主に発音を勉強し、韓国語の発音の特徴を認識、熟知、把握できるようにする。例えば、 ・子音、母音、発音の位置と方法、ハングルの組み立て方、有声音化、半母音、濃音、パッチムと連音化 ・終声、半母音と二重母音、内破音、終声規則、子音の連続、流音化、鼻音化、激音化などの発音の特徴	
	韓国語会話 B	それと同時に比較的簡単な会話、一般的な日常会話を学ぶ。また、会話の語彙を増やし言葉のいろいろな表現形式も身につけてゆく。	
	韓国語会話 A	下記の日常会話を学ぶ。 初めまして、学校を参観しましょう、私の家族、彼女今日は韓国語の授業があります、私は朝いつも早く起きます、どこへ行きましたか、私はサムゲタンを食べた事はなかった、家庭教師をやります、彼女は水泳に行きました、明日のお天気はどうか、休み中に帰国して休日を過ごす。	
	韓国語会話 B	韓国語能力試験に焦点を合わせ、電話やお願い程度の日常生活に必要な言語や、郵便局、銀行などの公共機関での会話ができ、1,500～2,000語程度の語彙を用いた文章を理解でき、使用できる、初級2級を目標とする。	
	韓国語演習	この授業では、聴力、会話、読み、書きの練習を通して、韓国語の習得を目的とする。また、韓国の文化を理解してもらうために、映画を見させて、韓国の有名な都市や名所旧跡、風俗習慣を紹介する。更に、韓国の詩の朗読を行い、韓国語と韓国文化に対する理解を強化する。	
	韓国語演習	単語と語句の書き取り。会話文の暗誦。これによって発音規則を習得する。グループ分けで会話文を作って練習する。場面を設定し、模擬練習をする。小テストも随時行う。	
	韓国語講読	中級レベルの韓国語を学ぶ。1年次に身につけた韓国語の基本的な知識をもとに、ある程度の分量があるテキストを使って、韓国語を実践的に利用する際に必須とされる語彙や文型、決まり文句の習得に努める。	
	韓国語講読	韓国に関する話題をテーマにした、中級レベルのテキストや教材を使用して、韓国や朝鮮半島の社会状況や生活習慣への理解を深めると同時に、さらなる読解力と応用力の向上を図る。	
	韓国語文法	韓国語能力試験に焦点を合わせ、日常生活を問題なく過ごせ、様々な公共施設の利用や社会的関係を維持するための言語使用が可能で、文章語と口語の基本的な特性を区分し理解、使用が可能な中級3級を目標とする。	
	韓国語文法	韓国語能力試験に焦点を合わせ、ニュースや新聞をある程度理解でき、一般業務に必要な言語が使用可能で、よく使われる慣用句や代表的な韓国文化に対する理解を基に社会・文化的な内容の文章を理解でき、使用可能な、中級4級を目標とする。	
	韓国語会話	二年生の会話の授業。日本の学生が韓国で一人暮らしをするときに役に立つよう、日常会話のさまざまな場面を想定しながら、会話表現を学んでゆく。会話のパターンにあった文型と文法もあわせて学ぶことにする。	
	韓国語会話	下記の内容を学ぶ。 日常の挨拶、自己紹介、日時をたずねる、買い物をする、値段を尋ねる、サイズや色などを指定する、レストランで料理を注文する、勘定を払う、家族や職業などを尋ねる、電話での表現、道を尋ねる、具合を尋ねる、趣味について話す、など。	
	韓国語作文	韓国語作文の初級段階。一步一步順を追ってしっかりと授業を進める。既に学習したハングルや文法や語彙等の韓国語の知識を使った文章表現力に加え、短く、簡単な平叙文、説明文、論説文における文章力の向上を目指す。	
	韓国語作文	以下のことを学ぶ。 ハングルの基本的な構成。簡単な疑問文、平叙文、感嘆文。簡単な個人の履歴書・自己紹介文の書き方。自分の家族を紹介する書き方。簡単な日程の手配をするときの書き方。個人の簡単な経歴と将来の計画を述べる書き方。自分の趣味と好きな事を紹介する書き方。部屋にあるものを説明するときの書き方。地理と交通路線を紹介するときの書き方。簡単な品物を紹介・描写するときの書き方。休暇願いの書き方。	
	韓国語作文	韓国語で短い自由作文を書く練習をする。韓国語で自分の考えをまとめ、相手に意図を伝える訓練をする。	
	韓国語作文	与えられたテーマに従って、少し長めの作文をする。また与えられたテキストを指示された字数に要約する訓練をする。	
	韓国語会話上級	日常会話の常用表現の活用を主に学びながら、コミュニケーション能力を高めることを目指す。学生が韓国語で自分の考え、感情、意思を表現できるようにする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
語学科目	韓国語会話上級	韓国語でのコミュニケーション能力のさらなる向上を目指す。複雑な会話や議論にも対応できるように、話す、聴く、理解する、議論する力を高める。	
	韓国語表現法	与えられたテーマに関して、自分の意見を言い、また反対意見の相手と議論できる訓練を行う。口頭表現とともに、文章表現においても、より高度な韓国語運用能力を身につけることを目指す。	
	韓国語表現法	に引き続き、口頭表現・文章表現の両面において、より高度な韓国語運用能力を身につけることを目指す。	
	時事韓国語	時事問題を扱った韓国語を読む。さまざまなニュースを読み、時事的な内容と表現に慣れる。さらに文法事項の確認、表現練習も取り入れて、多面的な韓国語能力の養成を目指す。	
	時事韓国語	に引き続き、時事問題を扱った韓国語を読む。ニュースを読み、時事的な内容と表現に慣れる。さらにニュースの聞き取りも取り入れて、より高度な韓国語能力の養成を目指す。	
	ビジネス韓国語	ビジネスに対応できる韓国語の語彙、言い回しを徹底的に学習する。ビジネスの場面において想定される韓国の事情や、政治、経済用語等を集中的に学習する。	
	ビジネス韓国語	実際のビジネスを想定したプレゼンテーション、質疑応答、議論と修正ができるよう実践的な韓国語力を養う。	
	韓日翻訳演習	韓国語のテキストの読解をし、日本語への翻訳訓練をする。日本語と韓国語の特徴の違いを考えながら、自然なわかりやすい日本語を念頭に翻訳文を作成する。	
	韓日翻訳演習	に引き続き、韓国語から日本語への翻訳の訓練を行う。学生がどれだけテキストの内容を正確に把握しているか、それを適切な日本語にうつしかえているのかも見ながら、翻訳技術の修得を目指す。	
	韓国語文献講読	朝鮮・韓国に関する学術的な論文や著作の中から、選りすぐった文章を教材として、学術文献を読みこなす際に語彙、文型、表現法の習得を図るとともに、朝鮮・韓国の様々な側面に対する理解を深める。	
	韓国語文献講読	での学習内容を踏まえて、学術的な論文や著作をさらに読みこなす作業を通じて、朝鮮・韓国に関する幅広い知識を身につけるとともに、より高度で実践的な読解力を身につけ、その定着を図る。	
	【任意科目】		
	韓国語演習	韓国語運用の基礎力を徹底的に養う。一年で修得した語彙・表現・文法の基礎を活用し、語彙を増やしながら、運用能力の向上もはかる。	
	韓国語演習	韓国語運用の基礎力を徹底的に養う。一年で修得した語彙・表現・文法の基礎を活用し、語彙を増やしながら、運用能力の向上もはかる。	
	韓国語演習	難易度の高い文章を聞き、読み、高度な内容をもった韓国語を話し、書けるようにする。韓国語の運用能力のさらなる向上を目指す。	
	韓国語演習	難易度の高い文章を聞き、読み、高度な内容をもった韓国語を話し、書けるようにする。韓国語の運用能力のさらなる向上を目指す。	
	【留学科目】		
	韓国語特別実習	留学中の韓国語学修の成果を評価して所定の単位を認定する。	
	韓国語特別実習	留学中の韓国語学修の成果を評価して所定の単位を認定する。	
日本語科目	日本語口頭表現	大学1年生を対象とした授業である。初級で学習した文法事項を復習し、教科書を使って、さらに新しい文法や表現を勉強する。それらを使って、いろいろな場面で、日本語でコミュニケーションができるように練習する。とくに「では、既習の文法を使って「伝える」ことに重点を置いた授業を行う。	
	日本語口頭表現	この授業では、「日本語口頭表現」〔春学期〕での学習済み内容をもとにして、さらに「よりよい、効果的な表現」について考える。この授業では3～4週間に一度、ビジターセッション（日本人学生参加授業）を行い、実際に日本人学生と話し合ったり、インタビューをしたりし、言語表現の上達とともに文化への理解を深めることも目標としている。	
	日本語文章表現	この授業は日本語作文の基礎を学び、論理的な文を書く力をつけることを目的とする。書き言葉と話し言葉の違いを理解し、書き言葉特有の語彙や表現などを取り上げながらまとまった文章を書けるよう学習していく。また、日常生活に必要な申込書などの記入についても取り扱う。	
	日本語文章表現	この授業では簡単な日本語の文章を論理的に組み立て、表現することを学習していく。日本語文章表現で学んだことを応用させ、より高度な文章作成を目指す。また必要に応じて簡単なレポート作成方法についても学んでいく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
語学 科目	日本語読解	授業前半では例題を参考に読解問題の解法を詳しく学び、後半では練習問題を数多く解きながら速いスピードで文章を理解できるようにすることを目標とする。また日本語で読む習慣を身に付けてもらうため、テキストの他にも新聞記事や、エッセイなど様々な分野の文章を紹介する。	
	日本語読解	この授業では専門分野の研究論文を読むための基礎的な訓練として、論理的な文章の読解力を向上させることを目標とする。主に文章の構造に注目しながら読解を行い、さらに読むために必要となる文法を復習・整理することを通じて、文章を正確に理解できるように練習する。	
	日本語聴解	リスニングには、ニュースや講義などを聴く一方向性のものと、話し手と聞き手が互いに立場を入れ替えながら行うインタラクション（相互活動）的なものの2種類がある。本科目では、インタラクションにおける聞く能力を高めることを第一の目的とし、相手が述べる情報を正確に聞き取ることに焦点を当てる。その上、自分の言い分を誤解なく伝えるという、場面に応じて適切に話す能力の向上までを、全体の目標としたい。さらに、受講生の習熟度に合わせて、適宜教材を選び、生の日本語に慣れていくようにする。	
	日本語聴解	「日本語聴解」〔春学期〕を終えたレベルの日本語力の学生を対象とする。の内容に引き続き、より高度なインタラクション（相互活動）内容を取り上げる。多様な人間関係と状況を設定したスキットを聞き取り、それらに応じた表現の使い分けを意識化する。よって、話し手の発話意図や感情を正しく理解することを目的の1つとする。なお、受講生の習熟度に合わせて、適宜の生教材を使い、もっと生の日本語に慣れていく機会としたい。	
	日本語口頭表現	「日本語口頭表現」を終了したレベルの授業である。中上級の文法事項を押さえながら、それらを用いて、大学生が必要とする具体的な場面や課題を設定し、日本語を用いて効果的に行動できるように練習を行う。インタビュー、スピーチなどを通じて、実践的な練習を行っていく。	
	日本語口頭表現	「日本語口頭表現」〔春学期〕に引き続き、中上級の文法事項をもとに、より具体的な場面や課題を設定し練習を行う。場面の詳細は以下の通りである。 1. 問い合わせをする 2. お店で接客をする 3. お願いをする 4. お店やサークルの宣伝をする 5. 誘う、断る、謝る 6. 道や交通の案内をする 7. インタビューをする	
	日本語文章表現	「日本語文章表現」を終えたレベルの日本語力の学生を対象とする。パラグラフ・ライティングの考え方を視野に入れ、論理的で明確な文章の書き方を練習する。さまざまなトピックについて、内容に応じた文章の構成を考え、200~300字程度の文章を書いてみることで、レポートや論文など、論理性を要する文章の作成に必要な基本事項を学習する。	
	日本語文章表現	「日本語文章表現」〔春学期〕で学習した内容をもとに複数のパラグラフを組み合わせることで、ある程度まとまった長さの文章をかけるようになることを目標とする。論理的で明確であり、文章全体が内容に応じた構成をもつ1,000~1,200字程度の文章をさまざまなトピックについて書いてみる。	
	日本語読解	「日本語読解」を終えたレベルの日本語力の学生を対象とする。高等教育機関で専門の文章を読むための戦略（ストラテジー）を身につけることで、人文科学のさまざまな分野での深い知識や、社会に関する広い知識も高めていく。 本授業は、受講者主導のゼミ形式で行われる。教員からの問題提起に対して学生が自ら考え、その結果を話し合い、クラス全体で再検討・評価を行う。	
	日本語読解	「日本語読解」〔春学期〕を終えたレベルの日本語力の学生を対象とし、さらに高いレベルでの書き言葉に相応しい文体の習得・内容に適した文法表現の習得・自身の意見を論理立てて表現するための文章構成力の養成を目指す。本授業は、教員主導ではなく、受講者がみずから考えながら話し合い、その過程で問題を解決していく活動をメインとする。	
	日本語聴解	「日本語聴解」を終えたレベルの人を対象とした授業である。「日本語聴解」で学習した聴解の技術を意識しながら、現代日本の一面をあらわすトピックを聞く。語彙を増やし、文字と音を結びつけながら徐々に長い会話や話についていけるようにする。また学習者が苦手とする発音の聞き取りを練習し、聴解力をさらにのばす。ニュースなど生の日本語を聞いて理解することも、学生の習熟度等により、視野に入れていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
語学科目目	日本語聴解	「日本語聴解」〔春学期〕に引き続き、各回、テキストに沿って、以下の手順で授業を進める。 1 話題について、知識や言葉を確認する。（未習語彙の類推練習も併せて行う）。 2 聞く 話の構成や内容を理解する。 3 聞く こまかく正確に聞く。 4 おぼえた言葉を使って、練習する。 5 感想などビデオについて話し合う。	
	上級総合日本語	「日本語口頭表現」を終了したレベルの授業である。大学の専門分野の授業の中で必要なプレゼンテーションの能力を高めるための実践的な練習を行う。また語彙や表現も増やしていく。次の3つのことを主な習得目標とする。 1. 大学の授業の中で必要なプレゼンテーションの仕方をマスターする。 2. 自分の専門分野について話したり、質問に答えたりできる。また人の話を聞いて適切にコメントすることができる。 3. 人間関係や場面に応じて、語彙や表現を使い分ける。	
	上級総合日本語	「上級総合日本語」〔春学期〕で学習したことをふまえて、大学の中だけではなく、社会的な話題に関してもより高度な日本語を使えるようになることを目指す。また語彙や表現も豊かにしていく。次の3つのことを主な習得目標にする。 1. 社会的な話題について自分の意見を述べたり、コメントしたりすることができる。 2. 場面や人間関係に応じて表現や語彙を使い分けることができる。 3. いわゆる日本的な文化背景に応じた話の進め方を学ぶ。	
	日本語上級文章表現	「日本語文章表現」を終えたレベルの日本語力の学生を対象とする。日本の高等教育機関で勉学・研究を行うのに必要な文章表現能力（作文能力）を養うための科目である。最終的には、卒業論文や研究発表レジュメなど、より論理性を要する学術的文章の作成技術の獲得を目指す。本授業は、教員の講義を中心とした授業ではなく、受講者がグループを組んで、一緒に問題点を考え、再構成し、発表するという形で行われるため、受講者の自主かつ積極的な参加が不可欠である。	
	日本語上級文章表現	「日本語上級文章表現」〔春学期〕を終えたレベルの日本語力の学生を対象とし、今まで学習してきた文章の作成技術を拡大・応用し、実生活・研究の場面で生かしていけるためのトレーニングを行う。本授業は、教員の講義を中心とした授業ではなく、受講者がグループを組んで、一緒に問題点を考え、再構成し、発表するという形で行われる。その上、WEB上のML（メーリングリスト）によって課題提出や議論などを行うため、パソコンを使っている授業進行に積極的に取り組む姿勢が必要である。	
	日本語上級読解	「日本語読解」を終えたレベルの日本語力の学生を対象とする。新聞記事や選書、アンケート調査等の生教材の読解を中心に、ディスカッション、重要表現や文法・語彙の練習問題を通して総合的な日本語能力を高めることを目標とする。取り上げる具体的なテーマは以下のとおりである。 1. ユニット1：ひとと味違う自己紹介 2. ユニット2：間取りの本当の意味 3. ユニット3：「買う」楽しみ 4. ユニット4：不思議な習慣 5. ユニット5：地球を守る	
	日本語上級読解	「日本語上級読解」〔春学期〕と同様に、新聞記事や選書、アンケートの読解を中心に、ディスカッション、重要表現や文法・語彙の練習問題を通して、総合的な日本語能力を高めることを目標とします。取り上げる具体的なテーマは以下のとおりである。 1. ユニット6：心と体のバランス 2. ユニット7：今どきの大学生 3. ユニット8：日本の会社に入るまで 4. ユニット9：日本の子供たち 5. ユニット10：女と男	
	情報日本語	場面に応じてさまざまなスピーチスタイルで話される日本語に対する聴解力を養成する。それぞれの談話上の特徴を理解し、聴解のためのストラテジーを身につけることを目標とする。少人数の間で交わされる会話、講義、テレビ番組、コマーシャル、映画などできるだけ実際のものを教材として使用し、それぞれの目的に応じた聞き方の練習を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
語 学 科 目	日 本 語 科 目	情報日本語	「情報日本語」〔春学期〕と同様の方針で授業を進める。具体的には「必要な情報を聞き取る」「大意をつかむ」「場面・状況を理解する」「展開を予測する」「イントネーションに注意して聞く」などの練習を行う。また正確な聴解のためには、語彙力も不可欠となるため、語彙を増やすことを目的とする授業も行う予定である。最終的には、複数のストラテジーを使って、ある程度の分量の談話の内容を正確に把握できるようになることを目指す。	
		上級総合日本語	「上級総合日本語」を終了したレベルの授業である。これまでの既習事項を総合的に運用した社会的・実践的な自己発表の技術を身につける。就職活動に必要な電話応対、自己PR、質疑応答の練習のほか、職業分野別の日本語表現や、大学院進学に必要な日本語表現など、受講生の目標に応じて、相談しながら進めていく予定である。 1. ビジネス場面でのあいさつ 2. 電話の応対 3. 志望動機 4. 質疑応答 5. 職業別、業種別の表現	
		上級総合日本語	「上級総合日本語」を終了したレベルの授業である。これまでの既習事項を総合的に運用した自己発表の技術を身につける。そして、ゼミや研究発表、また社会生活でのさまざまな場面において、自信を持って自分の考えや伝えたいことを表現できるようにする。 上級の文法事項を押さえながら、それらを用いて、卒業後の進路に即した、社会的・実践的な口頭表現ができるようになることを目的とする。それぞれが選択したテーマに関するグラフ・図表、文書形式などの資料収集を行い、それら資料の読み取りの練習を行う。次に、これらの資料から考察を行い、自分の考えを加えた形でまとめてから、発表する。最後に発表内容に関する質疑応答によって、発表内容に対するさまざまな問題点について討論する。	
		日本語上級文章表現	「日本語上級文章表現」を終えたレベルの日本語力の学生を対象とする。さまざまなスタイルの日本語の文章についてその特性を考察し、「よい文章」とは何かを考える。その上で読み手にとってのわかりやすさを意識しながら、実際に文章を書き、更に自己の文章表現に対する考察をもおこなう。	
		日本語上級文章表現	よい文章とは何かを考えるために、例となる文章の読解を行う。テキストをもとに実際に書くためのさまざまな表現技術について学習する。具体的な進め方については、授業に参加する学生に応じて決定する。	
		情報日本語	「情報日本語」を終了したレベルの授業である。さまざまな音声資料から必要な情報を聞き取れるように訓練する。副教材として、最近の社会問題や出来事などを取り上げたテレビのニュース、ドキュメンタリー、ドラマ、映画等を視聴しながら、さまざまな表現を習得し聴力のアップを図る。ドラマや映画等生活場面での言葉遣いや語彙を中心に扱い、情報ではニュースやドキュメンタリーなど公的な場面での言葉遣いや語彙を中心に扱う。	
		情報日本語	「情報日本語」に引き続き、生教材を積極的に取り入れ、さまざまな情報から必要な情報を取捨選択しながら理解していくように訓練する。具体的な授業の流れは以下のとおりである。 1. 語彙確認 2. 音声資料の視聴 3. 音声資料の内容の把握 4. 音声資料の内容について討論	
		日中翻訳演習	本講では、日本語を中国語に翻訳するための基本的な方法と技巧を教授する。すでに学生は日本語を中国語に翻訳する基本的な知識を習得しているが、複雑な句や短文の翻訳についてはさらに進んだ専門的な学習が必要である。そこで、本講では三段階に分けて講義と訓練を進める。「日中翻訳演習」では短文の翻訳の構造を復習し、まず学生に日本語と中国語の基本的な構造上の対応関係を理解させ、最も基本的な文型が比較的流暢に翻訳できるようにする。	
		日中翻訳演習	「日中翻訳演習」〔春学期〕に引き続き、ここでは雑誌や新聞のニュースなどの翻訳を通して中国語表現の構造を整理し、比較的複雑ではあるが、やや短めの文章を正確に翻訳することに留意する。つぎの段階では具体的に代表的な日本の散文、小説を選んで翻訳を進める。この段階では原文の意味の正確な翻訳に心がけ、構文とことばの美しさに留意しつつ、さまざまな翻訳を対比させながら、日本語を中国語に翻訳するための技巧を身につけさせたい。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
語 学 科 目	日 本 語 科 目	日韓翻訳演習	韓国語母語話者の留学生を対象として主に翻訳のための基礎的な事項について学ぶ。また、対照言語学的な見地から日本語から韓国語への翻訳の際に注意すべき点、発想や表現の差異等について考察する。「日本語上級読解 ・ 」を終えたレベルの日本語力の学生を対象とする。具体的な授業の進行方法としては、まず翻訳への基礎知識を分野別に踏まえてから、実践的な翻訳演習に移っていくものとする。	
		日韓翻訳演習	大学卒業後、専門的に翻訳者を目指す人はもちろん、各分野で日本語を生かして活動していく上で必要とされる日本語翻訳の基礎を学びその訓練を行う。「日韓翻訳演習 ・ 」〔春学期〕を終えたレベルの日本語力を持つ韓国語母語話者の留学生を対象とし、新聞記事や小説などの文章による生教材、ニュースなどの視聴覚資料を利用した実践的な翻訳演習とする。本授業は、受講者自らの翻訳や表現内容をもとに行われる。	
		【任意科目】		
		日本語演習	4年次配当の日本語科目のレベルを超える学生のために特別に設ける科目で、必要に応じて開講することとする。「日本語演習 ・ 」は、「上級総合日本語 ・ 」のレベルを上回る日本語力の学生を対象とし、口頭表現能力の指導に重点を置く。どのような場面（ビジネス、アカデミック、プライベートなど）でも、日本語による十分なコミュニケーションができるように指導する。	
		日本語演習	4年次配当の日本語科目のレベルを超える学生のために特別に設ける科目で、必要に応じて開講することとする。「日本語演習 ・ 」は、「日本語上級文章表現 ・ 」のレベルを上回る日本語力の学生を対象とし、文章表現能力の指導に重点を置く。ビジネス場面での書類作成、学術的な場面での論文作成など、高等な日本語文章表現が完全に身につくように指導する。	
		日本語演習	4年次配当の日本語科目のレベルを超える学生のために特別に設ける科目で、必要に応じて開講することとする。「日本語演習 ・ 」は、「日韓翻訳演習 ・ 」あるいは「日中翻訳演習 ・ 」のレベルを上回る日本語力の学生を対象とし、読解能力の指導に重点を置く。ただの読解能力向上ではなく、翻訳、通訳の場面で十分に活用できるように、瞬発力を身につけられる実践練習を多く行う。	
		日本語演習	4年次配当の日本語科目のレベルを超える学生のために特別に設ける科目で、必要に応じて開講することとする。「日本語演習 ・ 」は、「情報日本語 ・ 」のレベルを上回る日本語力の学生を対象とし、聴解能力の指導に重点を置く。高難易度の講義内容や、国際情勢、経済、政治など多方面における時事関連ニュースなどを、細部まで正確に聞き取る力を身につける。	
		日本語演習	4年次配当の日本語科目のレベルを超える学生のために特別に設ける科目で、必要に応じて開講することとする。「日本語演習 ・ 」は、「日本語演習 ・ 」〔春学期〕を引き継ぐ科目であり、「日本語演習 ・ 」と同様、口頭表現能力に重点を置く。日本語母語話者と同程度の自然な会話能力を身につけることと、日常生活のみならず、ビジネスやアカデミックな場面でも、高等の会話能力を発揮できるように指導する。	
		日本語演習	4年次配当の日本語科目のレベルを超える学生のために特別に設ける科目で、必要に応じて開講することとする。「日本語演習 ・ 」は、「日本語演習 ・ 」〔春学期〕を引き継ぐ科目であり、「日本語演習 ・ 」と同様、文章表現能力に重点を置く。ビジネス書類作成、学術論文作成のほかにも、多方面での文章力向上に努める。	
		日本語演習	4年次配当の日本語科目のレベルを超える学生のために特別に設ける科目で、必要に応じて開講することとする。「日本語演習 ・ 」は、「日本語演習 ・ 」〔春学期〕を引き継ぐ科目であり、「日本語演習 ・ 」と同様、読解能力の指導に重点を置く。専門翻訳家の文章などを考察・分析し、学生なりに再解釈するなどの、より学術的なレベルでの読解練習を行う。	
		日本語演習	4年次配当の日本語科目のレベルを超える学生のために特別に設ける科目で、必要に応じて開講することとする。「日本語演習 ・ 」は、「日本語演習 ・ 」〔春学期〕を引き継ぐ科目であり、「日本語演習 ・ 」と同様、聴解能力の指導に重点を置く。講義や時事関連スピーチを聴き取ることはもちろん、方言や役割語など、文化的色彩が強いマイナーな会話も難なく聞き取れるように、多方面での聴解練習を行う。	
		初中級総合日本語	1年次配当の日本語科目をレベルに達しない学生のために特別に設ける科目で、必要に応じて開講することとする。「初中級総合日本語 ・ 」は、「日本語口頭表現 ・ 」のレベルを下回る日本語力の学生を対象とし、口頭表現能力の指導に重点を置く。初中級レベルでの既習文法をもとに、「わかる」ものを「使う」ものに変えていくように、会話に慣れる練習をする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
語学科目	日本語科目	初中級総合日本語	1 年次配当の日本語科目をレベルに達しない学生のために特別に設ける科目で、必要に応じて開講することとする。「初中級総合日本語」は、「日本語文章表現」のレベルを下回る日本語力の学生を対象とし、文章表現能力の指導に重点を置く。日本語能力試験 3, 4 級に当たる既習文型をできる限り活用し、簡単でありながら自然な文章を書く能力を身につける。	
		初中級総合日本語	1 年次配当の日本語科目をレベルに達しない学生のために特別に設ける科目で、必要に応じて開講することとする。「初中級総合日本語」は、「日本語読解」のレベルを下回る日本語力の学生を対象とし、読解能力の指導に重点を置く。1000 字程度の中級レベルの文章を読んで、その内容を完璧に理解することに集中して指導を行う。	
		初中級総合日本語	1 年次配当の日本語科目をレベルに達しない学生のために特別に設ける科目で、必要に応じて開講することとする。「初中級総合日本語」は、「日本語聴解」のレベルを下回る日本語力の学生を対象とし、聴解能力の指導に重点を置く。アカデミックな講義やスピーチより、日常生活で多く接する自然な会話を多く聞き、そのスピードに耳を慣らすことに集中する。	
		初中級総合日本語	1 年次配当の日本語科目をレベルに達しない学生のために特別に設ける科目で、必要に応じて開講することとする。「初中級総合日本語」は、「初中級総合日本語」〔春学期〕を引き継ぐ科目であり、「初中級総合日本語」と同様、口頭表現能力に重点を置く。新しい文法項目や文型の習得より、既習文法や文型を上手に応用できるようにする実践練習に集中する。	
		初中級総合日本語	1 年次配当の日本語科目をレベルに達しない学生のために特別に設ける科目で、必要に応じて開講することとする。「初中級総合日本語」は、「初中級総合日本語」〔春学期〕を引き継ぐ科目であり、「初中級総合日本語」と同様、文章表現能力に重点を置く。既習文型を十分活用できるようになった時点で、日本語能力試験 2 級レベルの文型を新たに導入する。そして、それらを活用しての実践練習に力を入れる。	
		初中級総合日本語	1 年次配当の日本語科目をレベルに達しない学生のために特別に設ける科目で、必要に応じて開講することとする。「初中級総合日本語」は、「初中級総合日本語」〔春学期〕を引き継ぐ科目であり、「初中級総合日本語」と同様、読解能力に重点を置く。難易度を若干高めて、中上級レベルの文章を読む。そして、その内容が細部までしっかり理解できるように、読み方の戦略を取り上げて実践練習を行う。	
		初中級総合日本語	1 年次配当の日本語科目をレベルに達しない学生のために特別に設ける科目で、必要に応じて開講することとする。「初中級総合日本語」は、「初中級総合日本語」〔春学期〕を引き継ぐ科目であり、「初中級総合日本語」と同様、聴解能力に重点を置く。日本語母語話者の日常的な会話のスピードに慣れてきたら、教養科目の講義を聞いて、一予習復習をまめに行った上で一だまかな内容が理解できるように指導する。	
		資格日本語	日本語能力試験 1 級合格を目指し、主に自律学習の指導、弱点克服を目標に行う。受講者は相当量の自宅学習が要求される。受講者の日本語能力については日本語能力試験 2 級合格がこれと同等であることが望ましい。よって、第 1 週目の授業において診断テストを行う。まず、「資格日本語」では 2 級文法についての解説、練習を中心に行う。	
		資格日本語	「資格日本語」に引き続き、では 1 級文法についての解説、練習を行う。文法に関して、受講者は毎週、自分で問題を解き、疑問点や質問事項を整理して授業に出席しなければならない。学期期間中、学習した内容について 2 回の試験（中間・期末）を行う。なお、秋学期は日本語能力試験前に全授業を終了するため、11 月中の土曜日に補講を行うことがある。	
		【日本語能力試験科目】		
その他の外国語	日本語能力試験 1 級		日本語能力試験 1 級合格者に対し、その成果を評価して所定の単位を認定する。	
	（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語以外の言語）		別に定める基準により、他の大学等で修得した単位を 10 単位まで認定する	